

二年次履修科目

科目名	単位	時間数	講義時期	講師(○=実務経験者)
情報科学と統計	1	30	2年前期	浅尾 秀樹(○)
科目のねらい 医療・保健系データをもとに統計処理の基礎的理論と方法を理解し、情報機器操作により文書・発表物の作成・編集、プレゼンテーション能力を高める。				
教科書 : 医療系のための情報リテラシー 東京図書 (¥2,200) 参考文献 : 都度紹介 SPSSによる統計処理の手順 第7版 石村貞夫・石村光資郎 東京図書 生命科学・医療系のための情報リテラシー 第2版 丸善出版 ¥3,000 情報リテラシーOffice2016 実教出版				
評価方法 : 単位認定試験: 優(80点以上)、良(70点以上)、可(60点以上)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方 この授業の到達点は以下である。 ①医療・保健統計等のデータについて、統計処理の基礎的事項によって考察することができる ②Word、Excel、Power Pointを使って文書や図表、発表物、掲示物などを作成・編集できる ③SPSSの基礎的な操作ができ、医療系のデータから必要な結論を推定できる				

授業進度と内容

回数	単元	時間	学習内容	授業形態
1	講義ガイダンス、Word操作	2	自己プロフィール作成、表の挿入、書式設定など	演習
2	Word(作表、履歴書作成)	2	写真・図の挿入、	演習
3	Word(病院・イベント案内文書)	2	段組み、文書編集、表現力を工夫する	演習
4	Excel(基礎知識、表の作成)	2	連続データ入力、罫線、関数式の入力、書式など	演習
5	Excel(関数式、早退・絶対参照)	2	棒、折れ線、円、帯、複合、レーダーチャートなど	演習
6	Excel(グラフと図形)	2	ナイチンゲールの Bat's Wing グラフ、散布図、相関	演習
7	Excel(ピボットテーブル)	2	データの集計、クロス集計、分析	演習
8	Power Point(スライド作成)	2	テーマ設定、入力・編集、表示モード、スライド複製など	演習
9	Power Point(加工・編集)	2	図表、グラフの挿入、アニメーション設定	演習
10	Power Point(2	印刷・資料作成、プレゼンテーション	演習
11	統計の基礎	2	データの種類、基本統計量、標準偏差、偏差値	演習
12	検定の考え方	2	仮説検定、F検定、スチューデントT検定、有意差	演習
13	対応のない2群の平均値の検定	2	ウィルコクソンの順位和検定、クロス集計、カイ二乗検定	演習
14	対応のある場合とカイ二乗検定	2	クロス集計表、カイ二乗検定	演習
15	ノンパラメトリック検定 その他の検定例について	2	対応のある場合、対応のない場合、一元配置分散分析、相関・回帰	演習
単位修得認定試験		1	データがウインド、グラフ作成、統計処理、Wordレポート、スライド作成	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師 (○=実務経験者)
臨床検査	1	15	2年前期	西川 進 (○)
科目のねらい 医療における臨床検査の役割を知り、各種検査の意義と方法を学ぶ				
教科書 : 系統看護学講座 別巻 臨床検査 医学書院 参考文献 : 都度紹介				
評価方法 : 筆記試験 100% 評価認定 : 優(80点以上)、良(70~79点)、可(60~69点)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方 教科書にそってスライド等を使用して講義を進めます				

授業進度と内容

回数	単 元	時間	学習内容	授業形態
1	臨床検査の基礎	2	1. 臨床検査とその役割 2. 臨床検査の流れと看護師の役割	講義
2 ~8	主な臨床検査	3	1. 一般検査 2. 血液学的検査	講義
		3	1. 生化学検査 2. 免疫・血清学的検査	講義
		3	1. 内分泌学的検査 2. 微生物学的検査 3. 病理検査	講義
		4	1. 生理機能検査 循環機能検査 血圧 標準 12誘導心電図 ホルター心電図 パルスオキシメーター (実際に体験、モデル見学する) 呼吸機能検査 スパイロメトリー他 神経機能検査 脳波検査 他 2. 画像検査 超音波検査 磁気共鳴画像(MRI)検査 サーモグラフィ 3. 内視鏡検査	講義
	単位修得認定試験	1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師 (○=実務経験者)
病態と治療Ⅲ	1	30	2年前期	山本哲三(○) 杉本信志(○) 賀来 亨(○) 永森克志(○) 杉山雅子(○) 島村 佳一(○)
科目のねらい 疾患の病態、治療検査を理解しその疾患のもつ患者の身体のアセスメントに必要な基礎的能力を養う				
教科書 : 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 女性生殖器 成人看護学⑨ 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 脳・神経 成人看護学⑦ 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 眼 成人看護学⑬ 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 皮膚 成人看護学⑫ 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 歯・口腔 成人看護学⑮ 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 耳鼻咽喉 成人看護学⑭ 医学書院 参考文献 : 都度紹介				
評価方法 : 筆記試験 100%(山本 15% 杉本 25% 賀来 15% 永森 15% 杉山 15% 島村 15%) 評価認定 : 優(80点以上)、良(70~79点)、可(60~69点)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方 解剖生理学の復習をしながら、主に臨床で遭遇する代表疾患について講義します				
単元 : 生殖器系	担当講師 : 山本哲三		単元 : 皮膚科	担当講師 : 永森克志
単元 : 脳・神経	担当講師 : 杉本信志		単元 : 歯科	担当講師 : 杉山雅子
単元 : 眼科	担当講師 : 賀来 亨		単元 : 耳鼻科	担当講師 : 島村佳一

授業進度と内容

回数	単元	時間	学習内容	授業形態
1 2	女性生殖器の病態と 検査治療処置	4	1. 女性生殖器の構造と機能 ・外性器、乳房、内性器 ・性周期とホルモン、妊娠の成立 2. 症状とその病態生理 ・ショック、出血、帯下、疼痛 3. 診察・検査と治療・処置 ・内診、細胞診、超音波検査 染色体・遺伝子検査 ・腹腔穿刺・ダグラス窩穿刺 ・ホルモン療法、避妊 4. 疾患の理解 ・子宮がん、卵巣腫瘍、乳がん 月経異常、胎状奇胎、更年期障害	講義

回数	単元	時間	学習内容	授業形態
3 4 5 6 7	脳・神経系の病態と 検査治療処置	10	1. 脳・神経の構造と機能 ・脳、脊髄、神経系、脳室、脳脊髄液、脳血管 ・運動機能、感覚機能 2. 症状とその病態生理 ・意識障害、高次脳機能障害、運動・感覚機能障害、頭蓋内圧亢進と脳ヘルニア、髄膜刺激症状 3. 検査・診断と治療・処置 ・CT、MRI、脳血管撮影、脳波、髄液検査 ・開頭手術、V-P シャント 4. 疾患の理解 ・くも膜下出血、脳内出血、脳梗塞、脳腫瘍 頭部外傷、水頭症、髄膜炎 ・ギランバレー症候群、筋ジストロフィー 筋萎縮性側索硬化症、てんかん、認知症	講義
8 9	眼科疾患の病態と 検査治療処置	4	1. 眼の構造と機能 2. 症状とその病態 ・視力障害、視野異常、眼痛 3. 検査と治療 ・視力検査、眼底検査 ・点眼法、光凝固、屈折矯正、手術療法 4. 疾患の理解 ・近視、老視、斜視、眼振、結膜炎 網膜剥離、白内障、緑内障	講義
10 11	皮膚科疾患の病態と 検査治療処置	4	1. 皮膚の構造と機能 2. 症状とその病態生理 ・原発疹、続発疹、掻痒、皮疹、皮膚の老化 3. 検査と治療・処置 ・免疫・アレルギー検査 ・外用薬、光線療法、レーザー療法、凍結療法 4. 疾患の理解 ・皮膚炎、蕁麻疹、乾癬、熱傷、褥瘡、黒色腫 帯状疱疹、疥癬、エリマトーマス	講義

回数	単元	時間	学習内容	授業形態
12 13	歯科疾患の病態と 検査治療処置	4	<ol style="list-style-type: none"> 1. 歯の構造と口腔内の主な名称の復習 2. 歯科の臨床の主な科目を知る 3. う蝕、歯周疾患の治療 4. 口腔軟組織の病変 5. 口腔ケアとは 6. 誤嚥性肺炎 7. 義歯の取り扱いと義歯使用の患者のケア 	講義
14 15	耳鼻科疾患の病態と 検査治療処置	4	<ol style="list-style-type: none"> 1. 耳鼻咽喉・頸部の構造と機能 2. 症状とその病態生理 <ul style="list-style-type: none"> ・難聴、耳鳴、眩暈、鼻出血、嚥下障害 3. 検査と治療 <ul style="list-style-type: none"> ・聴力検査、平衡機能検査、味覚検査 ・点耳、鼓膜切開、点鼻、洗浄、吸入 4. 疾患の理解 <ul style="list-style-type: none"> ・外・中・内耳炎、メニエール病 副鼻腔炎、咽頭喉頭がん、鼻アレルギー 	講義
	単位修得認定試験	1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師(○=実務経験者)
社会福祉	1	30	2年前期	古井 寿(○)
科目のねらい 社会福祉の意義と概念、社会福祉制度と社会保障制度について学ぶ 社会福祉援助技術(ソーシャルワーク)の視点、方法について学び、医療・看護との連携の理解を深める				
教科書 : 系統看護学講座専門基礎分野 社会保障・社会福祉 健康支援と社会保障制度③医学書院 参考文献 : 都度紹介				
評価方法 : 筆記試験 100% 評価認定 : 優(80点以上)、良(70~79点)、可(60~69点)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方 基本的に教科書を使用して進めます 個別援助技術では一部 DVD 教材を使用します				

授業進度と内容

回数	単 元	時間	学習内容	授業形態
1	社会福祉の基礎概念	2	1. 社会福祉の全体像 2. 社会福祉の歴史 3. 社会福祉の基礎概念	講義
2 3	社会保障制度と社会福祉	4	1. 社会保障制度 2. 社会福祉の法制度 3. 社会保障・社会福祉の動向	講義
4 5	医療保障	4	1. 医療保障制度の沿革 2. 医療保障制度の構造と体系 3. 健康保険と国民健康保険 4. 高齢者医療制度 5. 保険診療のしくみ	講義
6 7	介護保障	4	1. 介護保険制度創設の背景と介護保険の歴史 2. 介護保険制度の概要 3. 介護保険制度の課題と展望	講義
8 9	所得保障	4	1. 所得保障制度のしくみ 2. 年金保険制度 3. 社会手当 4. 労働保険制度	講義
10 11	公的扶助	4	1. 貧困・低所得問題と公的扶助 2. 生活保護制度のしくみ 3. 低所得者対策と近年の動向	講義

回数	単 元	時間	学習内容	授業形態
1 2 1 3	社会福祉の分野とサービス	6	1. 高齢者福祉 2. 障がい者福祉 3. 児童家庭福祉	講義
1 4 1 5	社会福祉実践と医療・看護	2	1. 社会福祉援助とは 2. 個別援助技術(ケースワーク) 3. 集団援助技術 4. 間接援助技術と関連援助技術 5. 社会福祉援助の検討課題 6. 連携の重要性 7. 社会福祉実践と医療・看護の連携 8. 連携の場面とその方法 社会福祉の基礎概念	講義 DVD
単位修得認定試験		1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師 (○=実務経験者)
地域医療論	1	15	2年前期	永森克志(○) 櫻井美奈子(○)
科目のねらい 地域における地域看護活動を学ぶ 地域医療のしくみやつながり、医療と介護のつながりを学ぶ 継続看護のための連携、各専門職の協働について学ぶ				
教科書 : なし 資料配布 参考文献 : 都度紹介				
評価方法 : 筆記試験 100% (永森 レポート評価 30% 櫻井 筆記試験 70%) 評価認定 : 優(80点以上)、良(70~79点)、可(60~69点)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方 配布資料を中心に事例を提供しながら進めていきます				
単元：地域医療の現状と活動の概要			担当講師：永森克志	
単元：地域看護活動の方法・実際			担当講師：櫻井美奈子	

授業進度と内容

回数	単元	時間	学習内容	授業形態
1 2	地域医療の現状と活動の概要	4	1. 地域医療・僻地医療のしくみと現状 2. 地域の人々の健康と保健活動 3. 地域保健・医療・福祉と法律 4. 地域看護を取り巻く保健・医療・福祉の政策 5. さまざまな機関、職種との連携と調整 6. 家族関係の調整	DVD 講義
3 4 5	地域看護活動の方法	6	1. 地域看護活動の対象と場 2. 地域看護活動の目的 3. 地域看護活動の方法 事例にみる援助方法	講義
6 7 8	地域看護活動の実際	5	1. 地域行政機関における地域看護活動 2. 病院における地域看護活動 3. 職域における地域看護活動 4. 学校における地域看護活動 5. 地域の看護活動	DVD 講義
単位修得認定試験		1	レポート 筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師 (○=実務経験者)
成人看護学方法論 I	1	30	2年 前期	磯田恵美(○) 小山内洋子(○) 赤石清美(○)
<p>科目目的：急性期にある対象と家族の特徴を理解し、生命の維持と機能回復のために必要な看護を学ぶ</p> <p>目標：1. 急性期看護の特性を理解する</p> <p>2. 呼吸機能障害のある対象の特徴と看護を理解する</p> <p>3. 循環機能障害のある対象の特徴と看護を理解する</p> <p>4. 消化機能障害のある対象の特徴と看護を理解する</p>				
<p>教科書：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論① 医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 呼吸器② 循環器③ 消化器⑤ 医学書院</p> <p>参考文献：ナーシンググラフィカ 健康の回復と看護① 呼吸機能障害/循環機能障害 メディカ出版</p> <p>ナーシンググラフィカ 健康の回復と看護② 栄養代謝機能障害 メディカ出版</p>				
<p>評価方法：筆記試験 100% (磯田 40% 小山内 30% 赤石 30%)</p> <p>評価認定：優 (80点以上)、良 (70～79点)、可 (60～69点)、不可 (60点未満) の4段階評価とする</p>				
<p>授業の進め方：1. 1年次の解剖生理学・病態学・臨床看護総論などで学んだ知識をベースとし授業展開していきますので、しっかりと復習をして授業を受けましょう</p> <p>2. 臨地実習で遭遇する可能性がある事例を紹介しながら看護を学習していきます</p> <p>3. 配布された資料はいつでも活用できるように整理・持参してください</p> <p>4. 実習室で実際に体験しながら学ぶ内容もありますので、学内実習・演習の手引きを遵守し臨んでください</p>				
単元： 急性期にある対象の看護 呼吸機能障害をもつ患者の看護	担当講師 磯田恵美			
単元： 消化機能障害をもつ患者の看護	担当講師 小山内洋子			
単元： 循環器障害をもつ患者の看護	担当講師 赤石清美			

授業進度と内容

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1 2 3 4 5	急性期にある対象の看護 呼吸機能障害をもつ患者の看護	急性期看護の概要を理解する 呼吸機能のアセスメントの視点・内容・方法を理解する 呼吸機能の障害が対象の生活に及ぼす影響を理解する 呼吸機能の維持・回復に向けた看護を理解する	10	1. 急性期にある成人期の対象と家族 1)急性期における看護の目標 2)身体的・精神的・社会的特徴 2. 呼吸器疾患をもつ患者の特徴と看護 1)呼吸器の看護を学ぶにあたって 2)症状のアセスメントと看護 (1)咳嗽・喀痰 (2)血痰・喀血 (3)胸痛 (4)呼吸困難 3)検査を受ける患者の看護 (1)呼吸機能検査 (2)動脈血ガス分析 (3)気管支鏡検査 (4)肺生検	講義

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				(5)胸腔穿刺 4)治療・処置を受ける患者の看護 (1)肺理学療法（体位ドレナージ） (2)吸入療法 (3)酸素療法 (4)人工呼吸器 (5)胸腔ドレナージ 5) 代表的な呼吸機能障害をもつ患者のアセスメントと看護 (1)肺炎患者の看護 (2)肺がん患者の看護 (3)気管支喘息患者の看護 (4)慢性閉塞性肺疾患患者の看護 (5)自然気胸患者の看護	講義 体験学習 (体位ドレナージ)
6 7 8 9 10	循環機能障害をもつ患者の看護	循環機能のアセスメントの視点・内容・方法を理解する 循環機能の障害が対象の生活に及ぼす影響を理解する 循環機能の維持・回復に向けた看護を理解する	10	1. 循環器疾患をもつ患者の特徴と看護 1)循環器の看護を学ぶにあたって 2)症状のアセスメントと看護 (1)胸痛 (2)動悸 (3)呼吸困難 (4)浮腫 (5)チアノーゼ (6)めまい・失神 (7)四肢の疼痛 3)検査を受ける患者の看護 (1)心電図 (2)血行動態モニタリング (3)心臓カテーテル検査（CAG） 4)治療・処置を受ける患者の看護 (1)冠状動脈インターベンション (2)冠状動脈バイパス術 (3)ペースメーカー治療 (4)弁置換術・弁形成術 5)心臓リハビリテーションと看護 6) 代表的な循環機能障害をもつ患者のアセスメントと看護 (1)虚血性心疾患（狭心症・心筋梗塞）患者の看護 (2)心不全患者の看護 (3)不整脈患者の看護 (4)動脈系疾患（大動脈解離・下肢動脈閉塞症）患者の看護	講義 体験学習 (心電図の装着)

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
11 12 13 14 15	消化機能障害をもつ患者の看護	消化機能のアセスメントの視点・内容・方法を理解する 消化機能の障害が対象の生活に及ぼす影響を理解する 消化機能の維持・回復に向けた看護を理解する	10	1. 消化器疾患をもつ患者の特徴と看護 1)消化器の看護を学ぶにあたって 2)症状のアセスメントと看護 (1)嚥下困難 (2)おくび・胸やけ (3)嘔気・嘔吐 (4)腹痛 (5)吐血・下血 (6)下痢・便秘 (7)腹部膨満 (8)食欲不振・体重減少 (9)腹水 (10)黄疸 3)検査を受ける患者の看護 (1)造影検査 (2)腹部超音波検査 (3)内視鏡検査 4)治療・処置を受ける患者の看護 (1)栄養療法・食事療法 (2)胃瘻・空腸瘻の造設 5) 代表的な消化機能障害をもつ患者のアセスメントと看護 (1)食道がん患者の看護 (2)胃・十二指腸潰瘍患者の看護 (3)胆道・胆のう炎患者の看護 (4)肝炎・肝硬変患者の看護 (5)大腸がん患者の看護 (6)急性膵炎患者の看護	講義
単位修得認定試験			1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師 (○=実務経験者)
成人看護学方法論Ⅱ	1	30	2年 前期	井上里織(○) 三上麻美(○)
<p>科目目的：周手術期にある対象と家族の特徴を理解し、周手術過程に応じた看護を展開できるように必要な基礎的知識・技術・態度を身につける</p> <p>目標：1. 周手術期看護の特性を理解できる 2. 周手術各期（術前・術中・術後）の看護の特徴・役割・方法を理解できる 3. 術後回復を促進する看護技術（酸素吸入法・吸引法・包帯法）を習得する 4. 紙上事例による看護過程の展開を通して、成人期にある対象と家族に対して必要な看護を導き出す思考過程を養う</p>				
<p>教科書：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論・各論 医学書院</p> <p>参考文献：成人看護学 急性期看護Ⅰ 概論・周手術期看護 南江堂 成人看護学 成人看護技術 生きた臨床技術を学び看護実践力を高める 南江堂 ナーシンググラフィカ 成人看護学④ 周手術期看護 メディカ出版 看護実践のための根拠がわかる基礎看護技術 メヂカルフレンド社</p>				
<p>評価方法：筆記試験 三上 100%（看護過程演習評価 30%）</p> <p>評価認定：優（80点以上）、良（70～79点）、可（60～69点）、不可（60点未満）の4段階評価とする</p>				
<p>授業の進め方：1. 同時期に進行中の治療法概論の内容も踏まえながら授業展開していきます 2. 学内実習は事前課題→講義→実習→振り返り(リフレクション)→事後課題の流れで進めていきます 3. 臨地実習で遭遇する可能性がある事例を紹介しながら看護を学習していきます 4. 配布された資料はいつでも活用できるように整理・持参してください 5. 看護過程演習は、周手術期にある対象の事例で展開します</p>				
単元： 無菌捜査の基本術後の回復を促す看護技術			担当講師： 井上里織	
単元： 周手術期にある対象の看護 看護過程			担当講師： 三上 麻美	

授業進度と内容

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1 2 3 4 5 6 7	周手術期にある対象の看護	周手術期看護の概要を理解できる 周手術期にある対象の特徴を理解できる 術前における看護の特徴・役割・方法を理解する 術前患者に対するアセスメントの視点を理解する	2	1. 周手術期看護の概論 1)手術を受ける患者の状況 (1)手術の種類と適応 (2)生体反応と回復過程 2)チーム医療と看護師の役割 3)周手術期における安全管理 2. 手術前患者の看護 1)手術前の看護の要点・看護師の役割 2)術前準備 (1)手術前のオリエンテーション (2)手術に向けての身体準備 (3)手術室看護師の術前訪問 (4)手術前日・当日の準備	講義

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
		術中における看護の特徴・役割・方法を理解する 術中患者に対するアセスメントの視点を理解する	4	3. 手術中患者の看護 1)手術中の看護の要点・看護師の役割 2)手術室の環境管理 (1)手術室の構造・設備 (2)無菌操作 3)入室時の看護 4)麻酔導入時の看護 5)手術中の看護 (1)器械だし (2)間接介助 6)手術終了時の看護	講義
		術後における看護の特徴・役割・方法を理解する 術後患者に対するアセスメントの視点を理解する	6	4. 手術後患者の看護 1)手術後の看護の要点・看護師の役割 2)術後合併症の予防と看護 (1)呼吸器合併症 (2)循環器合併症 (3)術後イレウス (4)術後出血 (5)術後感染 (6)縫合不全 (7)術後せん妄 3)主要な手術を受ける患者の看護 (1)乳房切除術患者の看護 (2)胃切除術患者の看護 4)創傷治癒の看護 (1)創傷処置 (2)ドレーン管理 5)集中治療を受ける患者の看護	講義
		無菌操作の基本を理解し、創傷の早期治癒を促すための技術を原理・原則に基づいて実施できる	2	5. 学内実習 1)項目：無菌操作・創傷処置 2)方法 (1)事前課題 ①援助計画書の熟読・DVD 視聴 ②援助計画書に沿った技術練習 (2)学内実習の進め方 ①1グループ5名で「実施者」「介助者」「患者役」「実施者及び介助者の観察者」をローテーションしながら行う ②援助計画書に沿った技術の実施 ③技術評価 (3)リフレクションシートの記載	学内実習 DVD

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
8 9	術後の回復を促す看護技術	酸素吸入法・吸引法・包帯法の目的を理解し、原理・原則に基づいて技術を実施できる	4	<p>1. 学内実習</p> <p>1)項目：酸素吸入法・吸引法・包帯法</p> <p>2)方法</p> <p>(1)事前課題</p> <p>①学習ノートを作成</p> <p>a.酸素吸入法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・酸素の運搬機能 ・酸素吸入療法の概要 ・酸素吸入療法の方法 <p>b.吸引法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・口腔・鼻腔～気道・気管支・肺の構造 ・目的・根拠・方法 <p>c.包帯法（体験学習）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的・種類・注意点 <p>②援助計画書の熟読・DVD視聴</p> <p>③援助計画書に沿った技術練習</p> <p>(2)学内実習の進め方</p> <p>①グループ単位で「酸素吸入法」「吸引法」「包帯法」をローテーションする</p> <p>②援助計画書に沿った技術の実施</p> <p>③技術評価</p> <p>(3)リフレクションシートの記載</p>	学内実習 DVD 体験学習
10 11 12 13 14 15	看護過程	ヘンダーソン看護論に基づき成人期にある対象の健康上の課題や生活上のニーズを明らかにし、課題を解決するために必要な看護を導き出す思考過程を理解する	12	<p>1. 紙上事例による看護過程展開演習</p> <p>経過別：周手術期</p> <p>事例：胃がんで腹腔鏡下胃切除術を行う患者の看護(50歳代・男性)</p> <p>1)学習方法</p> <p>(1)個人ワーク</p> <p>①学習ノートを作成</p> <p>a.発達段階・発達課題</p> <p>b.疾患に関する解剖生理・病態生理</p> <p>c.胃がん患者の看護</p> <p>d.周手術期の看護</p> <p>②データベースの記載</p> <p>③アセスメント</p> <p>④全体像(関連図)</p> <p>⑤看護上の課題の優先順位の決定</p>	個人ワーク グループワーク

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				(2)グループワーク ①個人ワークの学習内容を元に、看護計画を立案する (3)全体発表 ①全体像をもとに看護計画内容について発表する (4)リフレクションシートの記載 2)評価方法 成人看護過程演習評価表で評価する	
単位修得認定試験			1	筆記試験 成人看護過程演習評価表	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師 (○=実務経験者)
成人看護学方法論Ⅲ	1	30	2年 前期	鎌田たまみ(○) 福島亮(○)
<p>科目目的：回復期にある対象と家族の特徴を理解し、生活の再構築と自立を促すために必要な看護を学ぶ 慢性期にある対象と家族の特徴を理解し、自己管理を確立するために必要な看護を学ぶ</p> <p>目標：1. 回復期におけるリハビリテーション看護の特性を理解する 2. 運動・脳神経機能障害のある対象の特徴と看護を理解する 3. 慢性の経過をたどる成人期にある対象への看護の特性を理解する 4. 腎泌尿・内分泌代謝・免疫機能障害のある対象の特徴と看護を理解する</p>				
<p>教科書：系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論① 脳・神経⑦ 運動器⑩ 腎・泌尿器⑧ 内分泌・代謝⑥ アレルギー・膠原病・感染症⑪ 医学書院</p> <p>参考文献：成人看護学 リハビリテーション看護 障害をもつ人の可能性とともに歩む 南江堂 慢性期看護 病気とともに生活する人を支える 南江堂 ナーシンググラフィカ 成人看護学③ セルフマネジメント MC メディカ出版 成人看護学 慢性期看護論第3版 スーベルヒロカワ</p>				
<p>評価方法：筆記試験 100% (鎌田 50% 福島 50%) 評価認定：優 (80点以上)、良 (70～79点)、可 (60～69点)、不可 (60点未満) の4段階評価とする</p>				
<p>授業の進め方：1. 1年次の解剖生理学・病態学・臨床看護総論・リハビリテーションなどで学んだ知識をベースとし授業展開していきますので、しっかりと復習をして授業を受けましょう 2. 臨地実習で遭遇する可能性がある事例を紹介しながら看護を学習していきます 3. 配布された資料はいつでも活用できるように整理・持参してください</p>				
単元： 回復期にある対象の看護			担当講師： 鎌田たまみ	
単元： 慢性期にある対象の看護			担当講師： 福島 亮	

授業進度と内容

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1 2 3 4 5 6 7	回復期にある対象の看護	リハビリテーション看護の概要を理解する	2	1. リハビリテーション期にある成人期の対象と家族 1)回復期のリハビリテーション看護 (1)リハビリテーション (2)自立を助ける器具と看護 (3)治療・看護の一貫性と継続性 (4)社会参加・在宅療養に向けて 2)身体的・精神的・社会的特徴	講義
		運動機能のアセスメントの視点・内容・方法を理解する	6	2. 運動器疾患をもつ患者の特徴と看護 1)運動器の看護を学ぶにあたって 2)症状のアセスメントと看護 (1)神経麻痺 (2)循環障害とフォルクマン拘縮	講義

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
		運動機能の障害が対象の生活に及ぼす影響を理解する 運動機能の維持・回復に向けた看護を理解する		(3)疼痛 (4)出血 (5)感染 (6)深部静脈血栓症 (7)褥瘡 3)検査を受ける患者の看護 (1)単純 X 線検査 (2)磁気共鳴画像法 (MRI) (3)脊髄造影検査 (4)関節造影検査 4)治療・処置を受ける患者の看護 (1)保存療法 ①ギプス固定・副子固定 ②牽引療法 (2)手術療法 5)代表的な運動器疾患をもつ患者の看護 (1)大腿骨頸部・大転子部骨折患者の看護 (2)椎間板ヘルニア患者の看護 (3)脊髄損傷患者の看護	講義
		脳・神経機能のアセスメントの視点・内容・方法を理解する 脳・神経機能の障害が対象の生活に及ぼす影響を理解する 脳・神経機能の維持・回復に向けた看護を理解する	6	3. 脳・神経疾患をもつ患者の特徴と看護 1)脳・神経の看護を学ぶにあたって 2)症状・障害のアセスメントと看護 (1)意識障害 (2)言語障害 (3)麻痺 (4)運動失調・不随意運動 (5)痙攣 (6)嚥下障害 (7)排尿障害 (8)頭蓋内圧亢進症状 3) 検査を受ける患者の看護 (1)頭部単純 X 線撮影 (2)コンピューター断層撮影 (CT) (3)磁気共鳴撮像法 (MRI) (4)脳血管撮影 (5)脳波検査 (6)筋電図検査 (7)脳脊髄液検査 4)治療・処置を受ける患者の看護 (1)手術療法 (2)内科的治療 (3)化学療法 (4)放射線療法 5) 代表的な脳・神経疾患をもつ患者の看護 (1)クモ膜下出血患者の看護 (2)脳梗塞患者の看護 (3)脳腫瘍患者の看護	講義

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				(4)筋萎縮性側索硬化症の患者の看護 (5)パーキンソン病患者の看護	
8 9 10 11 12 13 14 15	慢性期にある対象の看護	慢性期看護の概要を理解する	2	1. 慢性期にある成人期の対象と家族 1)慢性期における看護の目標 (1)セルフマネジメント支援 (2)継続看護と退院調整 ①成人期の療養生活に使用できる社会資源 2)身体的・精神的・社会的特徴	講義
		内分泌・代謝機能のアセスメントの視点・内容・方法を理解する 内分泌・代謝機能の障害が対象の生活に及ぼす影響を理解する 内分泌・代謝機能の維持・回復に向けた看護を理解する	6	2. 内分泌・代謝疾患を持つ患者の特徴と看護 1)内分泌・代謝の看護を学ぶにあたって 2)症状のアセスメントと看護 (1)肥満 (2)るい痩 (3)低・高血糖 (4)発汗異常 (5)女性化乳房 (6)テタニー 3)検査を受ける患者の看護 (1)糖負荷試験 (OGTT) (2)ホルモン負荷試験 (3)ホルモン血中・尿中濃度測定検査 (4)画像検査 4)治療・処置を受ける患者の看護 (1)食事療法 (2)薬物療法 (3)手術療法 5)代表的な内分泌・代謝疾患をもつ患者の看護 (1)甲状腺疾患患者の看護 (2)下垂体疾患患者の看護 (3)副腎疾患患者の看護 (4)糖尿病患者の看護	講義
		腎・泌尿機能のアセスメントの視点・内容・方法を理解する 腎・泌尿機能の障害が対象の生活に及ぼす影響を理解する	4	3. 腎・泌尿器疾患をもつ患者の特徴と看護 1)腎・泌尿器の看護を学ぶにあたって 2)症状のアセスメントと看護 (1)浮腫 (2)高血圧 (3)疼痛 (4)下部尿路症状 (5)尿の性状異常 3)検査を受ける患者の看護 (1)尿検査	講義

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
		腎・泌尿機能の維持・回復に向けた看護を理解する		(2)腎機能検査 (PSP 試験・GFR) (3)画像検査 (IVU・RP) (4)腎生検 4)治療・処置を受ける患者の看護 (1)透析療法 (2)腎移植 5)代表的な腎・泌尿器疾患をもつ患者の看護 (1)腎不全患者の看護 (2)ネフローゼ症候群患者の看護 (3)尿路尿管結石患者の看護 (4)前立腺肥大症患者の看護 (5)膀胱がん患者の看護	講義
		自己免疫機能のアセスメントの視点・内容・方法を理解する 自己免疫機能の障害が対象の生活に及ぼす影響を理解する 自己免疫機能の維持・回復に向けた看護を理解する	4	4. アレルギーをもつ患者の特徴と看護 1)アレルギーの看護を学ぶにあたって 2)症状のアセスメントと看護 (1)アナフィラキシー (2)皮膚症状 (3)眼症状 3)検査を受ける患者の看護 (1)血液検査 (2)スキンテスト (3)誘発試験・除去試験 4)治療・処置を受ける患者の看護 (1)アレルゲンの回避・除去 (2)薬物療法 (3)減感作療法 5)代表的なアレルギー疾患をもつ患者の看護 (1)アトピー性皮膚炎患者の看護 (2)アナフィラキシー患者の看護 5. 膠原病をもつ患者の特徴と看護 1)膠原病の看護を学ぶにあたって 2)症状のアセスメントと看護 (1)関節痛・関節炎 (2)発熱 (3)レイノー現象 (4)皮膚・粘膜症状 (5)タンパク尿 (6)筋力低下 3)検査を受ける患者の看護 (1)血液検査 (血清・免疫学的検査) (2)穿刺検査 (3)病理組織学的検査	講義

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				4)治療・処置を受ける患者の看護 (1)ステロイド療法 (2)免疫抑制薬 (3)抗リウマチ薬 5)代表的な膠原病をもつ患者の看護 (1)関節リウマチ患者の看護 (2)全身性エリテマトーデス患者の看護 6. 感染症をもつ患者の特徴と看護 1)感染症の看護を学ぶにあたって 2)症状のアセスメントと看護 (1)発熱・不明熱 (2)発疹・発赤 (3)下痢 3)検査を受ける患者の看護 (1)塗抹・培養検査 (2)抗原・抗体検査 4)治療・処置を受ける患者の看護 (1)検体採取 (2)抗菌剤の投与 5)代表的な感染症をもつ患者の看護 (1)HIV/AIDS 患者の看護 (2)敗血症患者の看護	講義
		単位修得認定試験	1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師 (○=実務経験者)
成人看護学方法論Ⅳ	1	30	2年 前期	渡辺由美(○) 井上里織(○)
<p>科目目的：がんをもつ対象と家族の特徴を理解し、長期化する療養生活を支えるために必要な看護を学ぶ 終末期にある対象と家族の特徴を理解し、最期までその人らしく生きることを支えるために必要な看護を学ぶ</p> <p>救急看護の概念と対象の特徴を理解し、救急搬送時に看護を展開するために必要な基礎的知識・技術・態度を身につける</p> <p>目標：1. がん医療の現状とがん看護の特性を理解する 2. 緩和ケアの概要と全人的苦痛の緩和に向けた看護の役割を理解する 3. 終末期看護の特性を理解し、自らの死生観を育むことができる 4. 救急看護の特性を理解し、救急処置に必要な技術（心肺蘇生法）を習得する</p>				
<p>教科書：系統看護学講座 別巻 がん看護学 緩和ケア 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論① 血液・造血器④ 医学書院 系統看護学講座 別巻 救急看護学 医学書院</p> <p>参考文献：ナーシンググラフィカ 成人看護学⑥ 緩和ケア メディカ出版 成人看護学 救急看護論 ヌーベルヒロカワ</p>				
<p>評価方法：筆記試験 100% (渡辺 50%、井上 50%) 評価認定：優 (80点以上)、良 (70～79点)、可 (60～69点)、不可 (60点未満) の4段階評価とする</p>				
<p>授業の進め方：1. 同時期に進行中の治療法概論の内容も踏まえながら授業展開していきます 2. 緩和ケアの DVD 視聴後にはレポート提出がありますので、形式や期限を守って提出しましょう 3. 学内演習は事前課題→講義→演習→振り返り(リフレクション)→事後課題の流れで進めていきます 4. 配布された資料はいつでも活用できるように整理・持参してください</p>				
単元：	がんをもつ対象の看護 終末期にある対象の看護	担当講師： 渡辺 由美		
単元：	救急医療における対象の看護	担当講師： 井上里織		

授業進度と内容

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1	がんをもつ対象の看護	がん医療の現状を理解する がん看護の概要を理解する がん治療における看護の役割を理解する	6	1. がん医療の現在と臨床経過	講義
2				1)がん対策推進基本計画	
3				2)がん患者の臨床経過	
4				(1)がんの診断から治療まで	
5				(2)治療と経過観察	
6				3)がん看護の概念 (1)エビデンスに基づく看護実践 (2)がん患者の苦痛・合併症に対するマネジメント	

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				(3)がん患者とのコミュニケーション (4)セルフヘルプグループ (5)がんの予防と早期発見 4)がん治療と看護 (1)がん治療における看護の重要性 ①治療完遂 ②患者主導の治療参加 ③治療継続のための管理 ④がんリハビリテーション ⑤チームアプローチ (2)手術療法における看護 (3)薬物療法における看護 (4)放射線療法における看護 (5)外来におけるがん看護	講義
		緩和ケアの概要を理解する 緩和ケアを必要とする対象の全人的苦痛を理解する 緩和ケアにおける看護師の役割を理解する	4	2. 緩和ケア 1)緩和ケアの現状 (1)緩和ケアの理念 (2)さまざまな場における緩和ケア (3)チームアプローチ (4)倫理的課題 2)緩和ケアの対象と看護の特徴 3)緩和ケアにおける看護実践 (1)身体的ケア (2)精神的ケア (スピリチュアルケア) (3)社会的ケア (4)家族ケア	講義 DVD
		血液造血機能のアセスメントの視点・内容・方法を理解する 血液造血機能の障害が生活に及ぼす影響を理解する 血液造血機能の維持・回復に向けた看護を理解する	2	3. 血液造血器疾患をもつ患者の特徴と看護 1)血液・造血器の看護を学ぶにあたって 2)症状のアセスメントと看護 (1)貧血 (2)出血傾向 (3)白血球減少 3)検査を受ける患者の看護 (1)血液検査 (2)骨髄穿刺・骨髄生検 4)治療・処置を受ける患者の看護 (1)輸血療法 (2)造血幹細胞移植	講義

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				5)代表的な造血器腫瘍の患者の看護 (1)白血病患者の看護	
7	終末期にある対象の看護	終末期看護の概要を理解する 現時点での死に対する自身の考えを表現できる	2	1. 人間にとっての死 1)死の概念 2)死の判定 3)死をめぐる倫理的課題 (1)尊厳死・安楽死 (2)鎮静（セデーション） (3)脳死 2. 危篤時に特徴的な症状と看護 (1)呼吸困難・死前喘鳴 (2)せん妄 (3)倦怠感 3. 臨終時のケア 1)臨終時の一般的な流れ 2)死亡の確認と死亡診断書 3)死後のケア 4. 遺族ケア	講義
8 9 10 11 12 13 14 15	救急医療にある対象の看護	救急看護の概要を理解する	2	1. 救急看護の概念 1)救急看護の定義と看護師の役割 2)わが国の救急医療体制と対応 (1)初期救急医療体制 (2)二次救急医療体制 (3)三次救急医療 3)救急看護と法的・倫理的側面 2. 救急看護の対象の理解 1)救急患者の特徴 2)救急患者家族の特徴	講義
		救急看護における観察の意義・特性を理解する 各部位の系統的観察方法を理解する	4	3. 救急患者の観察とアセスメント 1)救急看護における観察・アセスメントの特徴 2)初期観察とアセスメントの視点 3)緊急度・重症度の判断 4)各系統別の観察とアセスメント	講義
		救急時に見られる主要病態に対する看護のポイントを理解する	4	4. 主要病態に対する救急処置と看護 1)心肺停止状態への対応 (1)一次救命処置（BLS） (2)二次救命処置（ALS）	講義

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				2)意識障害への対応 3)呼吸障害への対応 4)ショック・循環障害への対応 5)急性腹症への対応 6)体液・代謝異常への対応 7)外傷への対応 8)熱傷への対応 9)中毒への対応 10) 精神症状への対応	講義
		救急処置法の原則と看護の実際を理解する	6	1. 学内演習 1)項目:心肺蘇生法 2)方法 (1)事前課題 ①学習ノートの作成 a.一次救命処置の目的・方法 b.二次救命処置の流れ・方法 ②DVD の視聴 ③心肺蘇生法の援助計画書の作成 ④援助計画書に沿った技術練習 (2)学内演習の進め方 ①グループ単位で「モデル人形による心肺蘇生法」「バックバルブマスク法人工呼吸と回復体位の体験」「BLS の意義についてのディスカッション」をローテーションする ②援助計画書に沿った技術の実施 ③技術評価 ④リフレクションシートの記載	学内演習
		単位修得認定試験	1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師 (○=実務経験者)
老年看護学方法論 I	1	30	2年 前期	富田理哉(○) 鈴木真理子(○) 齊藤泉(○) 齊藤まどか(○)
科目目的 : 高齢者に多い健康障害の特徴と健康回復及び終末期における看護を学ぶ 目標 : 1. 高齢者に多い健康障害の成り立ちと臨床的特徴を理解する 2. 高齢者に起こりやすい疾患の病態生理・症状・検査・治療を理解する 3. 身体可動性障害のある高齢者に対する看護を理解する 4. コミュニケーション障害のある高齢者に対する看護を理解する 5. 認知機能障害のある高齢者に対する看護を理解する 6. 終末期にある高齢者とその家族に対する看護を理解する				
教科書 : 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院 参考文献 : 新体系 看護学全書 老年看護学① 老年看護学概論老年保健 メヂカルフレンド社 ナーシンググラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害 メディカ出版				
評価方法 : 筆記試験100% (富田50% 鈴木10% 齊藤30% 齊藤10%) 評価認定 : 優(80点以上)、良(70~79点)、可(60~69点)、不可(60点未満)の4段階評価をする				
授業の進め方: 1. 1年次の解剖生理・病態学で学んだ知識がベースとなり、老化による影響を踏まえ 高齢者の健康障害について学んでいきますので、一般的な解剖生理・病態学 に関する知識の復習・確認をしながら授業を受けましょう 2. 実習で遭遇する可能性がある事例を紹介しながら看護を学んでいきます 3. 高齢者理解のための理論を紹介しながら必要な看護について学んでいきます 4. 9月からの老年看護学実習に向けて、真摯な態度で授業に臨むことを期待します				
単元: 高齢者の特徴的な疾患・症状・検査と看護				担当講師: 富田 理哉
単元: 認知症障害をきたす疾患・要因と看護				担当講師: 鈴木真理子
単元: 身体可動性障害、コミュニケーション障害にある高齢者の看護				担当講師: 齊藤 泉
単元: 高齢者の終末期における看護				担当講師: 齊藤まどか

授業進度と内容

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1 2 3 4 5 6	高齢者に特徴的な疾患・症状・検査と看護	高齢者に多い健康障害の成り立ちと看護について理解する	12	1. 高齢者に多い健康障害の成り立ち・臨床的特徴 1)摂食・嚥下障害 2)低栄養、やせ 3)熱中症、脱水 4)尿失禁・便秘・下痢 5)睡眠障害(不眠) 6)皮膚掻痒症 7)浮腫 8)倦怠感	講義

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
		身体可動性障害をきたす疾患・要因を理解する		2. 高齢者に起こりやすい疾患の病態生理・検査・治療 1)呼吸器疾患：肺炎、慢性閉塞性疾患 2)循環器疾患：心不全、不整脈 3)消化器疾患：逆流性食道炎 4)脳神経疾患：脳梗塞、脳出血、パーキンソン病 5)感染症疾患：ノロウイルス・インフルエンザ・尿路感染症 6)その他：前立腺肥大症、疥癬 3. 身体可動性に障害をきたす疾患・要因 1)高齢者の日常生活動作に影響を及ぼす原因・要因 (1)運動器疾患：大腿骨頸部骨折 変形性膝関節症 腰部脊柱管狭窄症 骨粗鬆症 (2)症状：痛み・痺れ・めまい	講義
7 8 9 10	身体可動性障害にある高齢者の看護 コミュニケーション障害のある高齢者の看護	身体可動性障害にある高齢者の看護を理解する コミュニケーション障害をきたす疾患・要因と看護について理解する	8	1. 身体可動性に障害のある高齢者の看護 1)転倒のアセスメントと看護 (1)転倒の要因 (2)転倒リスクのアセスメント (3)転倒予防に向けた看護 (4)転倒した高齢者への看護 2)廃用症候群のアセスメントと看護 (1)廃用症候群の主な症状 (2)廃用症候群の早期発見・予防に向けた看護 3)褥瘡のアセスメントと看護 (1)褥瘡の発生機序 (2)褥瘡リスクのアセスメント (3)褥瘡予防と看護ケア 2. コミュニケーション障害のある高齢者の看護 1)高齢者に起こりやすいコミュニケーション障害の原因・症状・分類・看護	講義 DVD

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
11 12	認知機能障害のある高齢者の看護	認知機能障害をきたす疾患・要因と看護について理解する	4	1.. 認知機能障害のある高齢者の看護 1) うつ病のアセスメントと看護 (1) 高齢者のうつ病の背景と特徴 (2) 看護のポイント 2) せん妄のアセスメントと看護 (1) 高齢者のせん妄 (2) せん妄のリスク要因と予防 (3) せん妄発生時の看護 3) 認知症のアセスメントと看護 (1) 認知症の病態と要因 (2) 認知症をきたす疾患の診断と治療 ① アルツハイマー病 ② 血管性認知症 ③ レビー小体型認知症 ④ 前頭側頭型認知症 (3) 中核症状・行動・心理症状 (4) 認知症の評価 (5) 看護の実際 ① コミュニケーションの方法 ② 環境づくり ③ 日常生活ケア ④ 行動・心理症状(BPSD)への対応	講義
13 14 15	高齢者の終末期における看護	高齢者の死亡に関する現状を理解する 終末期のプロセスと高齢者の意思決定の尊重について理解する エンドオブライフケアの概要を理解する 看取りに関わる家族に対する看護を理解する	6	1. 高齢者の喪失体験と死 1) 高齢者の死因 2) 高齢者が体験する様々な喪失体験 3) 高齢者が望む「死」と「最期の場」 4) 終末期のプロセス（4類型） 5) 終末期における意思決定 (1) インフォームドコンセント (2) 事前指示書（リビングウィル） 2. エンドオブライフケア 1) 終末期の身体徴候とアセスメント 2) 合併症の予防と苦痛の緩和 3) 日常生活の援助 4) 終末期を支えるチームアプローチ	講義 DVD

単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
			3. 家族へのグリーフケア 1) 家族のケアへの参加 2) 適切な情報提供 (目的・時期) 3) 高齢者と家族が過ごす場の環境調整 4) 予期悲嘆 (悲嘆のプロセス: デーケン) 5) 看取りを終えた家族へのケア (1) 看取り時の家族への配慮 (2) セルフヘルプグループ (事後課題) レポート提出	講義
単位修得認定試験		1	筆記試験	

<事前課題>

1. 老年看護学 医学書院 第4章「高齢者によく見られる身体症状とアセスメント」、第6章「健康逸脱からの回復と終末期を支える看護」の該当部分を熟読する。
2. 一般的な解剖生理・病態生理の復習をする。

<事後学習>

高齢者の終末期における看護 (レポート課題)

「私の死生観」について、A4 レポート用紙 1 枚程度に内容整理し、講義終了 3 日後に提出する。

科目名	単位	時間数	講義時期	講師 (○=実務経験者)
老年看護学方法論Ⅱ	1	30	2年 前期	齊藤まどか(○)
<p>科目目的：高齢者の健康上の課題を科学的根拠に基づいて判断・解決する思考過程と高齢者の生活を支える援助技術を習得する</p> <p>目標：1. 老年看護技術の特徴を理解する</p> <p>2. 高齢者の移乗・移動に関するアセスメントを理解し、安全・安楽な援助技術を習得する</p> <p>3. 高齢者の摂食・嚥下機能に関するアセスメントを理解し、安全・安楽な援助技術を習得する</p> <p>4. 高齢者の排泄機能に関するアセスメントを理解し、安全・安楽な援助技術を習得する</p> <p>5. 高齢者の清潔保持に関するアセスメントと援助方法を理解する</p> <p>6. 高齢者のコミュニケーション機能に関するアセスメントと援助方法を理解する</p> <p>7. 高齢者の生活リズムに関するアセスメントと援助方法を理解する</p> <p>8. 紙上事例による看護過程の展開を通して、高齢者と家族に対して必要な看護を導き出す思考過程を養う</p>				
<p>教科書： 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院</p> <p>参考文献： ナーシング看護学テキスト NICE 老年看護学技術 南江堂 看護実践のための根拠がわかる 老年看護技術 メヂカルフレンド社 ナーシンググラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害 メディカ出版</p>				
<p>評価方法： 筆記試験70% 看護過程30%</p> <p>評価認定： 優(80点以上)、良(70～79点)、可(60～69点)、不可(60点未満)の4段階評価をする</p>				
<p>授業の進め方：1. 事前課題に取り組んでいることを前提とし授業を行います</p> <p>2. 学内演習は事前課題→講義→演習→振り返り(リフレクション)→事後課題の流れで進めていきます</p> <p>3. 学内演習は実際の場面を想定して行いますので、看護を目指す者としての自覚と責任を持ち、技術の向上を目指して主体的に臨みましょう</p> <p>4. コミュニケーション能力の向上と視野を広げるために、看護過程演習ではプロジェクト学習を取り入れますので、積極的に参加しましょう</p>				

授業進度と内容

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1	高齢者の生活を支える援助技術	高齢者の特徴・老化の影響を加味した技術実践の必要性を理解する	2	1. 老年看護技術実践に必要な要素 1)老年看護の目的・目標の明確化 2)老年看護に関する専門的知識 3)高齢者の反応に応じた対応 4)看護師自身の看護観と技術習熟度	

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
2 3 4		高齢者にとっての移乗・移動の意義を理解する 移乗・移動に関するアセスメントを理解する		2. 日常生活を支える基本動作のアセスメントと看護技術 1)移乗・移動に関する援助技術 (1)日常生活動作の評価指標 (2)移乗・移動に影響する因子 (3)移乗・移動に関するアセスメント (4)移乗・移動に関する看護技術	講義 DVD 学内実習
		安全・安楽な移乗・移動動作に対する援助技術を実践する	2	(5)学内実習 ①項目：片麻痺がある高齢者の車椅子移乗・移動 ②方法 a.事前課題 ・片麻痺の動作体験 ・DVDの視聴 ・援助計画書に沿った技術練習 b.学内実習の進め方 ・グループ内で「看護師役」「高齢者役」「観察者」をローテーションする ・援助計画書に沿った技術の実施 ・技術評価 ・リフレクションシートの記載	
		高齢者の食生活に注目する意義を理解する 食事に関するアセスメントを理解する	2	2)食事に関する援助技術 (1)高齢者にとっての食事とは (2)食事に影響する因子 (3)食事に関するアセスメント (4)食事に関する看護技術	
		安全・安楽な食事摂取に対する援助技術を実践する	2	(5)学内演習 ①項目：嚥下機能が低下している高齢者の食事介助・口腔ケア ②方法 a.事前課題 ・DVDの視聴 ・援助計画書に沿った技術練習 b.学内演習の進め方 ・グループ内で「看護師役」「高齢者役」「観察者」をローテーション	

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態	
5				・ 援助計画書に沿った技術の実施		
6				・ 技術評価		
7				・ リフレクションシートの記載		
8		高齢者の尊厳を守った排泄援助の重要性を理解する 排泄に関するアセスメントを理解する	2	3)排泄に関する援助技術 (1)高齢者にとっての排泄行動自立の意義 (2)老化による排泄機能の変化 (3)排泄に関するアセスメント (4)排泄に関する看護技術		講義 DVD 学内演習
		安全・安楽な排泄に対する援助技術を実践する	4	(5)学内演習 ①項目：意識障害がある高齢者の陰部洗浄・おむつ交換 ②方法 a.事前課題 ・ DVD の視聴 ・ 援助計画書の作成 ・ 援助計画書に沿った技術練習 b.学内演習の進め方 ・ グループ内で「看護師役」「介助者」「観察者」をローテーションする ・ 高齢者役はモデル人形を使用する ・ 援助計画書に沿った技術の実施 ・ 技術評価 ・ リフレクションシートの記載		
		高齢者にとっての清潔保持の意義・アセスメント・援助方法を理解する	2	4)清潔に関する援助 (1)高齢者にとっての清潔保持の意義 (2)高齢者に特徴的な変調 (3)清潔に関するアセスメント (4)清潔に関する看護技術		
		高齢者にとってのコミュニケーションの意義・アセスメント・援助方法を理解する		5)コミュニケーションに関する援助 (1)高齢者にとってのコミュニケーションの特徴・意義 (2)高齢者とのかかわり方の原則 (3)コミュニケーションに関するアセスメント (4)コミュニケーションに関する看護技術		講義

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
		高齢者にとっての生活リズムを整える意義・アセスメント・援助方法を理解する		6)生活リズムに関する援助 (1)高齢者にとって生活リズムを整える意義 (2)高齢者に特徴的な変調 (3)生活リズムに関するアセスメント (4)生活リズムに関する看護技術	
9 10 11 12 13 14 15	看護過程の展開	ヘンダーソン看護論に基づき高齢者の健康上の課題や生活上のニーズを明らかにし、課題を解決するために必要な看護を導き出す思考過程を理解する	14	1. 紙上事例による看護過程展開演習 経過別：終末期 事例：肺がんの再発・転移で緩和ケアを必要とする高齢者の看護（70歳代・男性） 1)学習方法 (1)個人ワーク ①学習ノートの作成 a.発達段階・発達課題 b.疾患に関する解剖生理・病態生理を学習し、病態関連図を作成 c.肺がん患者の看護 d.終末期の看護 ②データベースの記載 ③アセスメント ④全体発表後の看護計画の立案 (2)グループワーク ①個人ワークの学習内容(①~③)を元に、全体像（関連図）を作成する ②看護上の課題の抽出と優先順位の根拠の明確化 (3)全体発表 ①全体像・看護上の課題・優先順位の根拠について発表する (4)リフレクションシートの記載 2)評価方法 老年看護過程演習評価表で評価する	個人ワーク グループワーク
単位修得認定試験			1	筆記試験・老年看護過程演習評価表	

<事前課題>

(高齢者の生活を支える援助技術)

1. 老年看護学総論 I で学んだ、老化による身体機能の変化について復習する。
2. 基礎看護学で学んだ生活援助技術に関する一般的知識を復習する。

科目名	単位	時間数	講義時期	講師 (○=実務経験者)
小児看護学総論Ⅱ	1	30	2年前期	山谷敬三郎(○) 松浦信夫(○) 坂本容子(○)
科目目的 : 小児各期の成長発達・栄養の特徴を学ぶ 小児各期における生活の特徴を学び、その家族を理解する 子どもと親を支援するための法律・政策・母子保健について学ぶ 目標 : 1. 小児各期の成長発達・栄養の評価を理解する 2. 小児各期の特性と生活を理解する 3. 小児保健の意義と動向を理解し、精神衛生・保健活動を学ぶ				
教科書 : 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学① 医学書院 参考文献 : ナーシング・グラフィック 小児看護学① 小児の発達と看護 MC メディカ出版				
評価方法 : 筆記試験100% (山谷20% 松浦40% 坂本40%) 評価認定 : 優(80点以上)、良(70~79点以上)、可(60~69点以上)、不可(60点未満)の 4段階評価とする				
授業の進め方 各期の子どもの成長・発達、健康、家族、看護について学び、 子どもの全体像が理解できるようにしていきます				
単元 : 子どもと家族を取り巻く社会			担当講師 : 山谷敬三郎	
単元 : 子どもの成長発達 子どもの栄養			担当講師 : 松浦信夫	
単元 : 小児各期の特徴と生活、家族アセスメント			担当講師 : 坂本容子	

授業進度と内容

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1 2 3 4	小児の 成長・発達	小児期の成長・ 発達の基本的な 特性を理解する	12	1. 成長発達とは 1) 小児看護学における発達論 2) 小児期の発達段階の区分 3) 発達の領域 2. 成長・発達の進み方(一般的原則) 1) 方向性・順序性 2) 発達の時期 3) 成熟と学習 3. 成長・発達に影響する因子 1) 遺伝的因子 2) 環境因子 4. 成長の評価 1) 身長・体重 2) 頭囲・胸囲 3) 生歯 4) 骨の発育 5) 思春期の身体の変化	講義 DVD 視聴 「運動機能 の発達」「情 緒の発達」 「社会性の 発達」「こと ばの発達」 「認知・思考 の発達」

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
5 6				5. 発達評価の方法 1) 発達評価の目的 2) 発達評価の方法 6. 形態的特徴・身体生理の特徴および 感覚運動機能・情緒社会的機能 1) 新生児・乳児 2) 幼児・学童 3) 思春期・青年期 7. 小児期の発達段階・発達課題に対する理論 1) エリクソン 2) ピアジェ 3) ボウルビィ	講義
7	小児の 栄養	子どもにとって の栄養の意義と 発達段階の栄養 の特徴を理解す る	2	1. 子どもにとっての栄養の意義 2. 子どもの食育 3. 食事摂取基準 4. 発達段階の子どもの栄養の特徴と看護 1) 乳児期の栄養 2) 幼児期の栄養 3) 学童期・思春期の栄養	講義
8 9 10 11 12	小児各期 における 生活の特 徴	各発達段階の特 徴と生活の特徴 を理解する	10	1. 新生児・乳児 1) 新生児の養育および看護 2) 乳児の養育および看護 2. 幼児・学童 1) 幼児の養育および看護 2) 学童の養育および看護 3. 思春期・青年期の子ども 1) 生活の特徴 2) 心理・社会的適応に関する問題 3) 反社会的・逸脱行動 4) 思春期の看護 4. 各期の安全教育・事故防止	講義 DVD 視聴 小児看護入 門シリーズ 「未就学児」 「学童青年」 幼児視野 体験
13	家族の特 徴とアッセ メント	子ども・家族と もに家族として の発達を理解 し、相互作用に よって成り立っ ていることを理 解する	2	1. 子どもにとっての家族 1) 家族とは 2) 現代家族の特徴 2. 家族のアセスメント 1) 子どもを持つ家族のアセスメントの留意点目的 2) 家族にとっての意味 (1) 構造的・機能的側面 (2) 発達段階・家族の役割 (3) さまざまな状況の家族	講義

	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
14 15	小児と家族を取り巻く社会	小児が擁護・養護され健やかに生まれ育つための法律や政策を理解する	4	1. 児童福祉 1)児童福祉の歴史 2)現在の児童福祉 2. 母子保健 1)母子保健の歴史 2)現在の母子保健 3. 医療費の支援 1) 未熟児養育医療 2) 小児慢性特定疾患治療研究事業 4. 予防接種 1)予防接種の歴史 2)現在の予防接種 3)副反応と健康被害救済制度 5. 学校保健 1)学校保健の歴史 2)健康診断 3)健康相談 4)感染予防 5)学校保健活動の推進 6. 心理的発達障害 1)学習障害 2)広汎性発達障害 7. 特別支援教育 8. 臓器移植法	講義
	単位修得認定試験		1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師 (○=実務経験者)
母性看護学総論Ⅱ	1	30	2年前期	吉田かつえ(○)
科目目的 : 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状を学び、母性看護の課題と役割を理解する 女性のライフステージ各期の看護を学ぶ 科目目標 : 1. 母性看護の歴史と統計からその変遷を知り、母性看護に関する組織や法律、母子保健政策の観点から母性看護の現状を理解する 2. 母性を取り巻く環境の特徴と母性看護の現状を理解する 3. 女性のライフサイクルに与えるホルモンの影響について理解する 4. 思春期・成熟期・更年期・老年期各期の身体的特徴と心理・社会的特徴を理解し各期の看護課題及び看護について理解する 5. リプロダクティブケアについて特徴及び看護について理解する				
教科書 : 系統看護学講座 母性看護学概論 母性看護学① 医学書院 参考文献 : 国民衛生の動向				
評価方法 : 筆記試験 100% 評価・認定 : 優(80点以上)、良(70～79点)、可(60点～69以上)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方 教科書を中心に国民衛生の動向を参考にしていきます				

授業進度と内容

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1 2	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状	母性看護の歴史と変遷を学ぶ 母子保健動向を理解する	4	1. 母性看護の歴史と変遷 2. 母子保健統計の動向 国民衛生の動向	講義
3	母性看護に関する組織と法律	母性看護にかかわる組織と法律について理解する	2	1. 母性看護にかかわる組織 2. 母性看護にかかわる法律	講義
4 5	母子保健政策から見た現状	母子保健政策の現状を理解する	4	母子保健政策の実際	講義
6	母性看護の対象を取り巻く環境	母性にダイナミックにかかわる環境について学び、今後の課題を考える	2	1. 家庭、地域社会 2. 生物・社会文化的環境	講義

7 8 9 10 11 12 13	ライフサイクルにおける女性の健康と看護の必要性	女性のライフサイクルと健康について 思春期の健康と看護を理解する 成熟期の健康と看護を理解する 更年期の健康と看護を理解する 老年期の健康と看護を理解する	14	1. 女性のライフサイクルとホルモン分泌 1) 思春期女性の特徴・健康課題と看護 (1) 第二性徴 (2)性意識・性行動の発達 (3)月経異常 (4)性感染 (5)人工妊娠中絶 2) 成熟女性の特徴・健康課題と看護 (1) 家族計画(2)不妊症・不育症 (3)子宮内膜症(4)子宮筋腫 3) 更年期女性の特徴・健康課題と看護 (1) ホルモンの変化と閉経 (2) 更年期症状 4) 老年期女性の特徴・健康課題と看護 (1)骨盤臓器脱(2)老人性膣炎・外陰炎	講義
14 15	リプロダクティブケア	リプロダクティブケアについて学ぶ	4	1. 喫煙女性の健康と看護 2. 性暴力を受けた女性に対する看護 3. HIVに感染した女性に対する看護	講義
単位修得認定試験			1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師 (○=実務経験者)
母性看護学方法論 I	1	30	2年前期	吉藤美幸(○)
科目目的 : 妊娠、分娩、産褥及び新生児の特徴を理解し、それぞれの対象とその家族の看護に必要な基礎的知識・技術・態度を身につける 科目目標 : 1. 妊娠期の身体的、精神的、社会的特徴を理解し、その看護を学ぶ 2. 分娩期の身体的、精神的特徴を理解し、その看護を学ぶ 3. 産褥期の身体的、精神的、社会的特徴を理解し、その看護を学ぶ 4. 妊娠、分娩、産褥期の特徴を理解し、セルフケア能力に視点をいた看護を展開できる能力を養う				
教科書 : 系統看護学講座 母性看護学各論 母性看護学② 医学書院 参考文献 : 都度紹介				
評価方法 : 筆記試験 100% 評価認定 : 優(80点以上)、良(70点~79点)、可(60点~69点)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方 母性の看護技術を身につけます ビデオ学習や教本を活用してイメージできるようにしていきます				

授業進度と内容

回数	単元	単元目標		学習内容	授業形態
1 2 3 4 5	妊娠期の看護	妊娠期の身体的特徴、精神的特徴、社会的特徴を理解し、その看護を学ぶ	6	1. 妊娠期の身体的特徴、精神的特徴、社会的特徴 2. 妊娠期の看護 健康診査と保健指導、妊娠の診察と介助生活指導、マイナートラブルと保健指導 妊娠期の栄養、分娩の準備と分娩準備教育、妊婦体操	講義 DVD
		妊婦の援助に必要なとされる基本的な看護技術を習得する	4	3. 学内実習 1) 実施項目 レオポルド触診法 児心音聴取 腹囲子宮底測定 2) 実施方法 (1) 妊婦の設定: 事例 妊娠 36 週 (2) 妊婦シミュレーションモデルで1グループ4人で2人1組になり教員の指導のもとで実施 (3) 他のグループは、妊婦体験モデル着用で自由練習を行い、順次妊婦シミュレーションモデルで実施	学内実習

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				(4) 測定や触診した結果を「妊娠健康診 査のまとめ」用紙に記載 (5) リフレクションシート記載	学内実習
6 7 8	分娩期の 看護	分娩後の身体的 特徴、精神的特 徴を理解し、そ の看護を学ぶ	6	1. 分娩後の身体的特徴、精神的特徴と分娩 の母子に影響を及ぼす影響 2. 分娩期の看護 1) 基本原則、分娩開始と入院時の看護 2) 分娩第1期の経過と看護 3) 分娩第2期の経過と看護 4) 分娩第3期の経過と看護 5) 分娩第4期の経過と看護 3. 分娩に伴う異常の看護	講義 DVD 分娩モデ ル教材
9 10 11	産褥期の 看護	産褥期の身体的 特徴、精神的特 徴、社会的特徴 を理解し、その 看護を学ぶ	6	1. 産褥期の身体的特徴、精神的特徴、社会 的 特徴 2. 産褥期の看護 1) 分娩後の24時間の経過と看護 2) 日常生活援助 3) 復古現象促進の援助 4) 母乳栄養確立のための援助 5) 退院に向けての保健指導 6) 産後の家族計画指導 3. 異常産褥の看護 4. 奇形児や子どもを亡くした母親への援助	講義 DVD
12 13	新生児の 看護	新生児の特徴を 理解し、その看 護を学ぶ	2	1. 新生児の生理的特徴 2. 出生直後の新生児の看護 3. 新生児の看護 1) 看護の基本 2) 保育環境 保育器の取り扱い 3) 日常の看護 4) 母親への保健指導・沐浴	講義 DVD 保育器の 取り扱い 演示
		新生児のオムツ 交換を習得する	2	4. 学内実習 1) 実施項目 オムツ交換 (1) 学生2人1組で新生児モデル人形 を使い練習 (2) オムツ交換援助計画書に従い実施 (3) リフレクションシート記載	学内実習

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
14 15	母性の特 殊看護技 術	新生児の援助に 必要とされる基 本的な看護技術 を習得する	4	<p>1. 学内実習</p> <p>1) 実施項目（新生児の看護）</p> <p>沐浴 抱き方・授乳(人工栄養)</p> <p>「抱き方・授乳」：新生児の抱き方 授乳時の抱き方 授乳（人工栄養） 排気の促し方</p> <p>(1) 沐浴・寝衣交換・オムツ交換 生後 2 日目 女児（または男児）</p> <p>(2) 抱き方・授乳 生後 4 日目 女児（または男児） 体重 2860g</p> <p>2) 実習方法</p> <p>(1) 2 グループに分かれ(1)、(2)を援助 計画書に従い実施</p> <p>(2) 終了後チェックリスト記載</p> <p>3) リフレクションシート記載</p>	DVD 学内実習
単位修得認定試験			1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師 (○=実務経験者)
精神看護学総論Ⅱ	1	30	2年前期	佐々木 美貴子(○)
科目目的 : ライフサイクルにおける心の健康と成長発達について学び、保健医療福祉チームにおける精神保健活動について学ぶ 目標 : 1. 精神保健の概念について理解する 2. 心の健康、成長、発達とそれに影響を与える要因について理解する 3. 精神保健の動向について学び、現状の問題や課題について理解する 4. 精神保健活動と看護の役割を理解する				
教科書 : 新体系 看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論、精神保健 メヂカルフレンド社 新体系 看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人への看護 メヂカルフレンド社 参考文献 : その都度紹介します				
評価方法 : 筆記試験100% 評価認定 : 優(80点以上)、良(70~79点)、可(60~69点)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方 : 1. 教科書、配布資料を基に進めていきます				

授業進度と内容

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1 2	精神保健 の概念	精神保健の概念について理解する	4	1. 精神保健の定義 2. 精神保健の領域 3. 現代社会と精神保健	講義
3 4 5 6 7	成長・発達 と危機	成長・発達と危機的状況について理解する	10	1. ライフサイクルと精神保健 1)心の発達理論 (1)ピアジェ発生的認識論 (2)精神分析理論 (フロイト) (3)人格の漸成発達理論 (エリクソン) 2)成長各期の発達 (1)胎児期 (2)乳児期 (3)幼児期 (4)学童期 (5)青年期 (6)壮年期 (7)老年期 2. 危機状況と心の働き 1)危機とは (1)危機状況 (2)危機の段階	講義

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				2)発達段階での危機の諸相と危機介入 (1)乳幼児期 (2)学童期 (3)思春期 (4)壮年期 (5)老年期	講義
8 9 10 11 12	現代社会 における 精神保健	現代社会における精神保健を理解する	10	1. 生活の場と精神保健 1)暮らしの場と精神保健 (1)家族の機能と家族形態の変化 (2)家族における精神保健上の問題 2)教育の場と精神保健 (1)現代の教育環境と心の健康 (2)学校における精神保健上の問題 3)職場の精神保健 (1)職場の環境変化と心の健康 4)地域と精神保健 (1)人間関係の希薄化と心の健康 (2)様々な社会問題とその様態 2. 医療現場における危機の諸相 1)発病に伴う危機状況 2)入院中におこる危機状況 (1)現代医療の意味 (2)現代医療がもたらす精神障害 ①せん妄(状態像、対応) ②抑うつ(状態像、対応) ③不眠(状態像、対応) 3)救急医療における危機状況 4)終末期における危機状況 3. 特殊状況（災害時）における危機の諸相 1)危機状況の基本的理解 2)自然災害時の危機 3)性的暴力被害時の危機状況	講義

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
13 14 15	精神保健 活動の実 際と今後 の課題	精神保健活動と今後 の課題を理解する	6	1. 精神保健の歴史 1)日本における精神保健、欧米における保健 2. 精神保健福祉法と医療行政 1)病院における医療及び保護 2)入院医療 (1)入院医療の特徴 (2)入院患者の処遇 (3)訪問看護 3. 地域精神保健福祉活動 1)目的と行政組織 2)各組織の役割 4. リエゾン精神医学とリエゾン看護について 1)リエゾン精神医学の概念と歴史 2)リエゾン精神看護の発達 3)わが国におけるリエゾン精神看護師の活動	講義
単位修得認定試験			1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師 (○=実務経験者)
精神看護学方法論 I	1	30	2年前期	村本 好孝(○)
科目目的 : 精神神経障害の特徴と主な精神疾患の原因、診断、治療について学ぶ 目標 : 1. 主な精神症状と精神疾患について理解する 2. 主な臨床検査と治療について理解する 3. リエゾン精神医学について理解する				
教科書 : 新体系 看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人への看護 メヂカルフレンド社 参考文献 : その都度紹介します				
評価方法 : 筆記試験 100% 評価認定 : 優(80点以上)、良(70~79点)、可(60~69点)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方 : 1. 教科書・配布資料を基に進めていきます				

授業進度と内容

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1	精神障害者の理解	精神に障害をもつ人を理解するための基礎的知識としての精神症状と精神疾患を理解する	16	1. 精神症状の種類	講義
2				1)知覚の障害	
3				2)思考の障害	
4				3)思考内容の障害 (妄想)	
5				4)自我意識の障害	
6				5)感情の障害	
7				6)意欲、行動の障害	
8				7)意欲障害	
				8)知能障害	
				9)記憶の障害	
				2. 状態像 (症状群)	
				1)不安状態	
				2)心気状態	
				3)幻覚妄想状態	
				4)抑うつ状態	
				5)精神運動状態	
				6)昏迷状態	
				7)無為、自閉状態	
				8)引きこもり状態	
				3. 中枢神経症状	
				1)巢症状	
				(1)失語 (2)運動性失語	

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				(3)感覚性失語 (4)身体部位失認 4. 精神障害の分類 1)内因性精神障害 (1)統合失調症 (2)躁うつ病 (3)てんかん 2)外因性精神障害 (1)症状精神病 (2)アルコール依存と薬物依存 (3)脳器質性精神障害 (4)てんかん 3)心因性精神障害 (1)神経症 (2)心因性精神病 4)精神遅滞 5)性格異常	講義
9 10 11 12 13	精神障害 を持つ人 に行われ る主な検 査・治療	精神に障害を持つ人 に行われる主な検査 治療について理解す る	10	1. 検査 1)頭部放射線検査 (1)頭蓋単純X-P (2)CTスキャン (3)MR I 2)脳波検査 3)髄液検査 4)心理検査 (1)知能検査 ①ウェクスラー成人知能検査 (WA I S) ②子ども用W I S CではV I Q P I Qの差による適応障害の 分析 ③鈴木ビネー式知能テスト ④老年用知能テスト a. H D S (2)人格検査 ①質問用紙 a. ミネソタ多面的人格目録 (MM P I)	講義

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				b. 矢田部-ギルフォード検査 (Y-G性格検査) ②投影法 a. ロールシャッハテスト b. T A T (絵画統画テスト) c. 文書完成テスト (S C T) (3)記名力検査 ①視覚記銘力検査 a. ベントン視覚記銘力検査 ②聴覚記銘力検査 a. 数唱問題 b. 対話課題 2. 治療 1)身体療法 (1)薬物療法 ①向精神薬 ②抗精神薬 ③抗躁薬・気分安定薬 (ムードスタビライザー) ④抗うつ薬 ⑤抗不安薬 ⑥認知症の治療薬 ⑥てんかん薬 2)精神療法 (1)精神分析法(2)力動精神療法 (3)催眠療法 (4)支持療法 (5)行動療法 (6)その他の精神療法 3)社会療法 (1)作業療法 (2)レクリエーション 療法 (3)生活療法 (4)環境療法(5)社 会復帰療法 (ディケアなど)	講義
14 15	精神医学 の領域と の連携、情 報交換の 必要性	精神医学の領域との 連携、情報交換の必 要性について理解す る	4	1. リエゾン精神医学	講義
単位修得認定試験			1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師 (○=実務経験者)
在宅看護論総論Ⅱ	1	30	2年 前期	櫻井美奈子(○) 高橋都子(○)
科目目的 : 在宅看護に関する諸制度と、在宅看護展開方法の基礎知識を学ぶ 目標 : 1. ケアマネジメントの概念と機能について理解する 2. 在宅ケアを支える諸制度と社会資源について理解する 3. 訪問看護の仕組みと訪問看護ステーションの運営について理解する 4. 在宅における看護過程展開のポイントを理解する 5. 在宅看護における他職種との連携の必要性と実際を理解する 6. 在宅看護における危機管理について理解する				
教科書 : 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院 参考文献 : ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア メディカ出版 看護学テキスト NiCE 在宅看護論 自分らしい生活の継続をめざして 南江堂 在宅看護論 実践をことばに (第6版) ニューベルヒロカワ				
評価方法 : 筆記試験 100%(櫻井 70%、高橋 30%) 評価認定 : 優(80点以上)、良(70~79点)、可(60~69点)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方 : 1. 事前課題に取り組んでいることを前提とし授業を行います 2. 授業では参考資料も活用しながら学習内容の充実を図ります 3. 地域医療論・社会福祉・関係法規など、在宅看護に関連する専門基礎分野の学習内容を復習しましょう				
単元 : 在宅看護の制度			担当講師 : 櫻井美奈子	
単元 : 在宅看護の展開			担当講師 : 高橋都子	

授業進度と内容

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1 2	在宅看護 の制度	ケアマネジメントの 意義・目的・構成・ プロセスを理解する 介護保険制度におけ るケアマネジメント の実際を理解する	4	1. 在宅看護の歴史 2. ケアマネジメントの概念 1) ケアマネジメントとは 2) ケアマネジメントの目的 3) ケアマネジメントの構成要素 4) ケアマネジメントのプロセス 5) 介護保険制度のケアマネジメント (1) ケアマネージャー (2) ケアプランの作成 (3) サービス担当者会議 6) ケアマネジメントの実際	講義

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
3 4 5 6 7		在宅ケアに関連する諸制度と社会資源について理解する 地域包括ケアシステムの概要を理解する	10	1. 在宅ケアを支える諸制度と社会資源 1)在宅ケアを支える医療保険制度 2)高齢者を支える制度と社会資源 (1)介護保険制度 (2)地域包括ケアシステム 3)障害者の在宅療養を支える制度と社会資源 4)難病の療養者を支える制度と社会資源 5)子どもの在宅療養を支える制度と社会資源	講義
8 9 10		訪問看護の目的を理解する 訪問看護制度の概要を理解する 訪問看護ステーションの運営に関する内容を理解する	6	1. 訪問看護制度 1)訪問看護とは 2)訪問看護の利用者 3)訪問看護ステーションに関する規程 4)訪問看護の内容 5)訪問看護の利用までの手続き 6)訪問看護の提供とチームケア 7)訪問看護の費用と請求 8)利用者が払う利用料 9)高額介護サービス・高額医療費などの適用 10)公費負担医療制度の適用 2. 世界の訪問看護 3. 訪問看護の課題と今後の方向性	講義
11 12	在宅看護の展開	在宅看護における看護過程展開の特徴を理解する	4	1. 在宅看護過程の意義・ポイント 2. 在宅看護過程の展開方法 1)在宅看護過程の特徴 2)情報収集とアセスメントの特徴 3)看護計画立案の特徴 4)実施・評価の特徴 (1)訪問看護記録の意義 (2)訪問看護で使用する記録	講義

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
13 14		他職種との連携の意義とその中で訪問看護師が果たす役割を理解する	4	1. 他職種との連携における看護師の役割 1)在宅における連携の特徴 2)医師との連携 3)介護保険の社会資源との連携 4)その他の社会資源との連携 5)ネットワークづくり 2. 入退院時における医療機関との連携 1)退院時の調整 (1)医療機関の看護師の役割 (2)訪問看護師の役割 (3)病院と訪問看護の連携方法 2)入院時の調整 (1)主治医との連携 (2)病院・病棟への引継ぎ	講義
15		在宅における事故発生の背景と予防・防止の実際を理解する 災害発生時の対応・看護を理解する	2	1. 在宅における安全性の確保 1)在宅におけるリスクの特徴 (1)薬物による医療事故防止 (2)転倒事故防止 (3)感染防止 2)災害時の在宅看護	講義
単位修得認定試験			1	筆記試験	

<事前課題>

(在宅看護の制度)

第1～2回 : 教科書 第3章 在宅看護の制度「ケアマネジメントの概念と機能」を熟読する。
老年看護学総論で学習した介護保険制度について復習する。

第3～7回 : 教科書 付章 関係法令を熟読する。

第8～10回 : 教科書 第3章 在宅看護の制度「訪問看護制度」を熟読する。

(在宅看護の展開)

第11～15回 : 教科書 第4章 在宅看護の展開を熟読する。

看護展開技術(基礎看護学)で学習した看護過程の展開について復習する。

科目名	単位	時間数	講義時期	講師(○=実務経験者)
論理学	1	30	2年後期	石飛 道子(○)
科目のねらい 対話の中に論理を入れて、優しいコミュニケーションのやり方を学ぶ 思考を順序立てる方法を学ぶ				
教科書 : プリントを配布する 参考文献 : 都度紹介				
評価方法 : 筆記試験100% 評価認定 : 優(80点以上)、良(70~79点)、可(60~69点)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方 教材をプリント配布で進めます				

授業進度と内容

回数	単 元	時間	学習内容	授業形態
1	論理学の目的	2	 <p>プリントを中心に問題に自らついて考え、答えを出しながら、論理的な思考を学ぶ</p>	講義中心
2	因果関係・縁起	2		
3	コミュニケーション法	2		
4	弁証法・対話法	2		
5	語り方のあれこれ	2		
6	因果関係	2		
7	ブッタの公式	2		
8	自然の因果・心の因果	2		
9	順序立てて説明する	2		
10	相対的な言葉(反対)	2		
11	相対的な言葉(矛盾)	2		
12	わかりやすい表現	2		
13	考えて書く	2		
14	考察しよう まとめてみよう	2		
15	まとめ	2		
単位修得認定試験		1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師(○=実務経験者)
英語Ⅱ	1	30	2年後期	佐藤 有(○)
科目のねらい 医療に関するメディアからの広汎な英文を学びながら、①医療に関わる基本的な英語用語を身につける②英語の読解力・活用力を高める③英語のコミュニケーション能力を高める				
教科書：特定の教科書は使用しません 使用資料は授業に先立って配布します 参考文献：Akihiko Higuchi, John Tremarco <i>First Aid! English for Nursing</i> KINSEIDO 201 (英語Ⅰで使用した教科書)				
評価方法：筆記試験 100% 評価認定：優 (80点以上)、良 (70~79点)、可 (60~69点)、不可 (60点未満) の 4段階評価とする				
授業の進め方： ①毎回、授業の最初の10分は英会話に当てます ②原則としてシラバスに沿って行いますが、皆さんから特に希望するトピックがある場合や、興味ある関連ニュースが放送された場合は、一部変更することがあります				

授業進度と内容

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1	パラグラフとトピックセンテンス	パラグラフとトピックセンテンスの関係構造を把握できる	2	・パラグラフとは何か トピックセンテンスとは何か ・パラグラフの中からトピックセンテンスを見つけだす	全体学習 ／グループ学習
2	要約文作成	要約文作成の要領を知り、要約できる	2	・「話題と主張」の押さえ方 ・「展開部」の要約のし方 (意見>事実、抽象>具体の原則) ・対比・比喩表現に関する要約のし方 ・字数	全体学習 ／グループ学習
3	運動とアルツハイマー予防効果	アルツハイマー病についてのニュース内容を把握する	2	(1) ヒアリング (2) フレーズリーディング (音読と繰り返し) (3) 講読 (4) 単元に関係した TOEIC 形式の文法問題 (5) 英作文練習	全体学習 ／グループ学習
4	同上	同上	2	同上	同上
5	脂肪分の多い伝統食からヘルシー志向へ	マレーシアの民族料理に対して最近起こっている変化についてのニュース内容を把握する	2	(1) ヒアリング (2) フレーズリーディング (音読と繰り返し) (3) 講読 (4) 単元に関係した TOEIC 形式の文法問題 (5) 英作文練習	全体学習 ／グループ学習
6	同上	同上	2	同上	同上

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
7	音法(1)	日本人が聴きにくい発音を、ネイティブ・スピーカーはどのように発音しているかを再把握する	2	音の連結、同化・脱音などの音の変化の練習	全体学習 ／グループ学習
8	遺伝子工学の目的	遺伝子工学についてのエッセイの内容を把握する	2	(1)ヒアリング(2)フレーズリーディング(音読と繰り返し)(3)講読(4)単元に関係した TOEIC 形式の文法問題(5)英作文練習	全体学習 ／グループ学習
9	音法(2)	日本人が聴きにくい発音を、ネイティブ・スピーカーはどのように発音しているかを把握する	2	音の連結、同化・脱音などの音の変化の練習	全体学習 ／グループ学習
10	世界的な禁煙傾向	世界的な禁煙傾向についてのニュース内容を把握する	2	(1)ヒアリング(2)フレーズリーディング(音読と繰り返し)(3)講読(4)単元に関係した TOEIC 形式の文法問題(5)英作文練習	全体学習 ／グループ学習
11	同上	同上	2	同上	同上
12	遺伝子	遺伝子についてのエッセイの内容を把握する	2	(1)ヒアリング(2)フレーズリーディング(音読と繰り返し)(3)講読(4)単元に関係した TOEIC 形式の文法問題	全体学習 ／グループ学習
13	緑茶の効用	緑茶の効用についてのエッセイの内容を把握する	2	(1)ヒアリング(2)フレーズリーディング(音読と繰り返し)(3)講読(4)単元に関係した文法問題	全体学習 ／グループ学習
14	同上	同上	2	同上	同上
15	ライフスタイルと健康	ライフスタイルと健康の密接なつながりについてのエッセイの内容を把握する	2	(1)ヒアリング(2)フレーズリーディング(音読と繰り返し)(3)講読(4)単元に関係した文法問題	全体学習 ／グループ学習
単位修得認定試験			1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師(○=実務経験者)
関係法規	1	30	2年後期	水野 晃(○)
科目のねらい 保健医療福祉に関する法規を理解する 看護業務に関連の深い関係法規を学び、看護師の業務や責任について学ぶ				
教科書 : 系統看護学講座 専門基礎 看護関係法令 健康支援と社会保障制度④ 医学書院 参考文献 : その都度紹介します				
評価方法 : 筆記試験100% 評価認定 : 優(80点以上)、良(70~79点以上)、可(60~69点以上)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方 教科書や配布資料を中心に進めます				

授業進度と内容

回数	単 元	時間	学習内容	授業形態
1	講義の導入	2	授業の進め方、看護師倫理と法律 看護師のガバナンス	講義
2	看護師と法律	2	看護師と法律・裁判、 医療・福祉・社会保障と法律	
3	日本の社会保障制度	2	日本の社会保障制度、保健、年金 セイフティネット	
4	看護師として知っておくべき法律 生活保障関連法規	2	生活保障に関連する法規	
5	看護師として知っておくべき法律 保健衛生関連	2	保健衛生に関連する法律	
6	看護師として知っておくべき法律 保健予防関連	2	保健予防に関連する法律	
7 8	医療従事者関連法律	4	医療従事者に関連する法律	
9 10	看護師に関連する法規	4	保健師助産師看護師法	
11	看護師として知っておくべき法律 労働関係法規	2	労働関係に関する法律	
12	看護師として知っておくべき法律 諸法	2	諸法	

回数	単 元	時間	学習内容	授業形態
13	医療過誤	2	「医療過誤と責任」	講義
14	医療過誤	2	医療過誤・具体的事例の紹介	
15	医療過誤	2	演習 医療過誤の具体例を参考に 「責任」を考える	講義 演習
単位修得認定試験		1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師(○=実務経験者)
治療法概論	1	30	2年後期	吉田秀明(○) 住田巨造(○)
科目のねらい 外科疾患の病態、治療検査を理解しその疾患患者の身体のアセスメントに必要な基礎的能力を養う				
教科書 : 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院 参考文献 : 都度紹介				
評価方法 : 筆記試験 100% (吉田 60% 住田 40%) 評価認定 : 優(80点以上)、良(70~79点)、可(60~69点)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方 教科書、スライド(パワーポイント)を併用して進めます				
単元 : 外科患者の病態の基礎 外科的治療の実際 放射線療法			担当講師 : 吉田秀明	
単元 : 外科的治療支える分野 救急処置の原則 心肺蘇生法			担当講師 : 住田巨造	

授業進度と内容

回数	単元	時間	学習内容	授業形態
1 2 3 4	外科患者の病態の基礎	8	1. 外科的基本手技 ・縫合と抜糸、止血、創傷管理 2. 低侵襲治療 3. 内視鏡治療 4. 外科的治療 ・外科的治療の特徴と手術適応 乳房切除患者 消化器及び腹部疾患 5. 臓器移植の基礎知識	講義 スライド
5 6 7 8 9	外科的治療を支える分野	10	1. 麻酔法 ・麻酔とは ・全身麻酔(吸入麻酔・静脈麻酔) ・局所麻酔(脊髄クモ膜下麻酔・硬膜外麻酔) ・局所麻酔、術前・術中・術後管理 2. 呼吸管理 ・酸素療法、人工呼吸器 3. 体液・栄養管理 ・中心静脈栄養法、経腸栄養法	講義 スライド

回数	単元	時間	学習内容	授業形態
			4. 輸血療法 5. 緩和医療 6. 疼痛緩和 7. 患者の自己決定権とインフォームド・コンセント	
10 11 12 13	外科的治療の実際 救急処置法	8	1. 外科的治療の近年の傾向と特徴 2. 手術侵襲と生体の反応 3. 炎症の外科的治療 4. 外科感染症（SSI 予防） 5. 腫瘍の診断と治療 6. 外傷とショック 7. 救急処置法の原則 8. 心肺蘇生法（CPR）	講義 スライド
14 15	放射線療法	4	1. 放射線医学の成り立ちと意義 2. 画像診断 ・ X線、 CT 、 MRI、 超音波、 核医学 3. 放射線治療 ・ 放射線の種類 ・ 正常組織の有害反応、治療可能比 ・ 放射線治療の特徴と目的 4. 放射線防護 ・ 放射線障害、放射線防護	講義 スライド
	単位修得認定試験	1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師 (○=実務経験者)
小児看護学方法論 I	1	30	2年後期	松浦信夫(○)
科目のねらい 小児の健康障害の特徴と小児期に多い健康障害の病態・診断・経過・治療を学ぶ				
教科書 : 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学② 医学書院 参考文献 : 都度提示				
評価方法 : 筆記試験 100% 評価認定 : 優(80点以上)、良(70～79点以上)、可(60～69点以上)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方 教科書を中心に授業をすすめていきます。				

授業進度と内容

回数	単元	時間	学習内容	授業形態
1 2	染色・先天異常、新生児の疾患	4	1. 染色体異常・先天異常 1) 常染色体異常 2) 性染色体異常 2. 新生児の疾患 1) 分娩損傷・適応障害 2) 低出生体重時の疾患 3) 成熟異常	講義
3 4	代謝、内分泌疾患	4	1. 代謝性疾患 新生児マス・スクリーニング 1) ムコ多糖症 2) 骨形成不全症 3) 糖尿病1型 2. 内分泌疾患 1) 成長ホルモン分泌不全性低身長症	
5 6	免疫・アレルギー疾患、感染症	4	1. 免疫疾患・アレルギー性疾患 1) 食物アレルギー 2) 気管支喘息 3) アトピー性皮膚炎 2. 感染症 1) ウイルス感染症 麻疹・風疹・伝染性紅斑・水痘 手足口病・ヘルパンギーナ インフルエンザ・急性灰白髄炎 2) 細菌感染症 百日咳・ジフテリア・溶血性連鎖球菌感染症	

回数	単元	時間	学習内容	授業形態
7 8 9	呼吸器、循環器疾患	6	1. 呼吸器疾患 1) クループ症候群 2) 気管支炎・肺炎 2. 循環器疾患 1) 心室中隔欠損症 心房中隔欠損症 動脈管開存症 2) ファロー四徴症 川崎病 乳幼児突然死症候群	講義
10 11	消化器、血液・造血器疾患	4	1. 消化器疾患 1) 口唇・口蓋裂 2) 肥厚性幽門狭窄症 ヒルシュスプリ ング病 鎖肛 腸重積症 3) ロタウイルス感染症 2. 血液・造血器疾患 1) 再生不良性貧血 溶血性貧血 2) 特発性血小板減少性紫斑病 3) 好中球減少症 4) 血友病	
12 13	悪性新生物、 腎・泌尿器疾患	4	1. 悪性新生物 1) 急性リンパ性白血病 急性骨髄性白血病 2) 神経芽腫 2. 腎・泌尿器疾患 1) 糸球体腎炎 ネフローゼ症候群 2) 神経芽腫 ウイルムス腫瘍 3)	
14 15	神経疾患、事故・外傷 救急蘇生法	4	1. 神経疾患 1) てんかん 脳性麻痺 2) 二分脊椎 水頭症 2. 事故・外傷 1) 溺水 2) 熱傷 3) 熱中症 3. 子どもの救急蘇生法	
単位修得認定試験		1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師 (○=実務経験者)
小児看護学方法論Ⅱ	1	30	2年後期	宮部麻衣子(○) 坂本容子(○)
<p>科目目的 : 病気や障がいを抱く小児とその家族の特徴を理解し、小児とその家族に必要な看護を 実践するための知識・技術・態度を身につける</p> <p>目標 : 1. 病気・障害を持つ子どもと家族の特徴と看護の役割が理解できる 2. 子どもを取り巻く環境や生活の場、災害などの状況に特徴づけられる看護について理解する 3. 疾病の経過から看護の特徴を理解し、子どものアセスメントに必要な知識・技術を学ぶ 4. 障がい児看護の基礎的知識と子どもの虐待と看護について学ぶ 5. 小児技術・看護過程の展開方法を学ぶ</p>				
<p>教科書 : 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学① 医学書院</p> <p>参考文献 : ナーシング・グラフィック 小児看護学② 小児看護技術 MC メディカ出版</p>				
<p>評価方法 : 筆記試験100% 宮部30% 坂本70% (筆記40%・看護過程の展開30%)</p> <p>評価認定 : 優(80点以上)、良(70～79点以上)、可(60～69点以上)、不可(60点未満)の 4段階評価とする</p>				
<p>授業の進め方</p> <p>子どもの健康問題と看護に焦点を当て、経過別・治療処置別・症状・状況別看護を学び、小児と その家族に必要な看護を学習します。事例による看護過程の展開と小児の看護技術演習を行い、 学習内容が活用できるように進めていきます</p>				
単元：病気・障害を持つ小児と家族の看護～疾病の経過と看護				担当講師：宮部麻衣子
単元：子どものアセスメント 症状を示す～小児の看護技術・看護過程				担当講師：坂本容子

授業進度と内容

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1	病気・障害 を持つ小児 と家族の看 護	病気・障害をもつ 小児と家族の特徴 と看護の役割を知 る	2	<p>1. 病気・障害が子どもと家族に与える 影響</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの病気・治療に伴うストレス ・子どもの病気・障害に対する家族の 負担、ストレス <p>2. 子どもの健康問題と看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・苦痛の緩和、意思決定の支援 セルフケアの支援 ・子どもの日常生活に関わる看護 ・子どもと家族の看護 	講義

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
2	状況に特徴付けられる看護	状況(環境)に応じて、子どもと家族の看護を理解する	2	<ol style="list-style-type: none"> 入院中の子どもと家族の看護 <ul style="list-style-type: none"> 子ども家族の特徴 治療入院生活を支える看護 外来における子どもと家族の看護 <ul style="list-style-type: none"> 外来の特徴と看護の役割・外来環境 在宅療養中の子どもと家族の看護 <ul style="list-style-type: none"> 在宅医療の背景と意義、社会資源 災害時の子どもと家族の看護 <ul style="list-style-type: none"> 災害時の子どもと看護の特徴とその看護 	講義
3 4	疾病の経過と看護	疾病の経過から看護の特徴を理解する	4	<ol style="list-style-type: none"> 慢性期にある子どもと家族の看護 <ul style="list-style-type: none"> 特徴と子どもに与える影響 セルフケア能力、自立した成人患者 急性期にある子どもと家族の看護 <ul style="list-style-type: none"> 苦痛の緩和、倫理的配慮 周手術期の子どもと家族の看護 <ul style="list-style-type: none"> 手術の特徴、術前後の看護 終末期の子どもと家族の看護 <ul style="list-style-type: none"> 死についてのとらえ方 子どもをなくした家族の看護 	講義
5	小児のアセスメント	アセスメントに必要な身体計測および身体診査の方法を理解する	2	<ol style="list-style-type: none"> アセスメントに必要な技術 <ul style="list-style-type: none"> コミュニケーション、バイタルサイン、身体測定 身体的アセスメント <ul style="list-style-type: none"> 呼吸器、循環器、消化器、運動・神経系 	講義
6 7	症状を示す小児の看護	子どもに起こりやすい症状とその看護を理解する	4	<ol style="list-style-type: none"> 不きげん、啼泣、呼吸困難、発熱、嘔吐、下痢、便秘、脱水、発疹、けいれん、黄疸 	講義
8	障害のある小児と家族の看護 小児の虐待と看護	子どもと家族の支援について理解する	2	<ol style="list-style-type: none"> 障害のとらえ方 障害のある子どもと家族の特徴 障害のある子どもと家族の社会的支援 虐待の定義とタイプにおける特徴 リスク要因と発生予防・早期発見 虐待に特徴的にみられる状況 求められるケア 	講義
9 10	検査・処置を受ける小児の看護	小児の特殊技術・治療・処置別看護を理解する	4	<ol style="list-style-type: none"> 子どもにとっての検査・処置体験 薬用量の決定 検査・処置 	講義

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
14 15	検査処置を受ける小児の技術演習	小児の安全・安楽・自立を考慮し適切な手順と技法を用いて必用な小児の基礎技術を習得する	4	1.学内実習 1)採尿パックの貼付(尿採取) 2)点滴固定方法:体位の支え方、点滴刺入部の固定(点滴シーネ) 3)バイタル測定・身体計測 4)環境調整・環境の整え方 2.学習方法 1)援助計画書に沿って技術の実施 2)技術チェックリストによる技術の評価 3.リフレクション 1)リフレクションシートの記載 2)技術チェックリスト・リフレクションシートを用い、担当教員から個別指導・助言	技術実習
単位修得認定試験			1	筆記試験・看護過程演習評価表で評価する	

事前課題：看護過程展開のための学習として、すでに学習した内容が想起できるようノート整理をしてください。1. 小児の気管支・肺の構造と特徴、2. 小児看護で用いる理論(エリクソン・ピアジェ)
 3. 小児の急性期の看護、4. 症状別看護(発熱・咳・脱水)、6. 治療処置(吸入・輸液管理)
 7. 小児・家族アセスメント(発達段階・発達課題)

事後課題：看護過程記録・看護計画の提出 提出：講義終了3日後
 ワークシート(子どもノート)の記載

科目名	単位	時間数	講義時期	講師 (○=実務経験者)
母性看護学方法論Ⅱ	1	30	2年後期	山本哲三(○) 吉田かつえ(○)
科目目的 : 母性各期に起こりやすい疾患と異常の徴候を学び、健康障害の予防に必要な看護が実践できるための基礎的知識・技術・態度を身につける 科目目標 : 1. 母性のライフサイクル各期に起こりやすい疾患とその看護について学ぶ 2. 妊娠・分娩・産褥経過中にみられる異常について学ぶ 3. 周産期にある対象の看護過程の展開について学ぶ				
教科書 : 系統看護学講座 母性看護学各論 母性看護学② 医学書院 系統看護学講座 成人看護学(9) 女性生殖器 医学書院 参考文献 : 都度紹介				
評価方法 : 筆記試験 100% 山本 70% 吉田 30%(筆記 15%演習 15%) 評価・認定 : 優(80点以上)、良(70点～79点)、可(60点～69点)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方 看護過程ではグループ学習があります 看護過程に関する事前学習(復習)をして参加して下さい 看護過程の既習資料を持参して下さい				
単元: 妊娠の異常 分娩の異常 産褥の異常 ライフサイクルに関連した生殖器疾患と看護			担当講師: 山本哲三	
単元: 看護過程			担当講師: 吉田かつえ	

授業進度と内容

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1 2 3	妊娠の異常	異常妊娠と看護について学ぶ	6	妊娠の異常 1. ハイリスク妊娠 2. 妊娠期の感染症 3. 妊娠疾患 4. 多胎妊娠 5. 妊娠持続期間の異常	講義
4 5	分娩の異常	分娩に伴う異常と看護について学ぶ	4	分娩の異常 1. 産道の異常 2. 娩出力の異常 3. 胎児の異常による分娩障害 4. 胎児の付属物の異常 5. 胎児機能不全 6. 分娩時の損傷 7. 分娩第3期および分娩直後の異常 8. 分娩時異常出血 9. 産科処置と産科手術	講義

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				①褥婦：「呼吸、循環、体温」「排泄」「休息・睡眠」「衣類・清潔」「役割・達成感」「学習」「性」 ②新生児：「栄養」「排泄」	個人ワーク
			2	<講義> 1) 下記の情報の分析・解釈、看護課題の明確化を看護過程展開例の提示・説明 ①褥婦：「呼吸、循環、体温」「排泄」「休息・睡眠」「衣類・清潔」「役割・達成感」「学習」「性」 ②新生児：「栄養」「排泄」 <個人ワーク>(提出)	講義 個人ワーク
			2	<講義> 1) 看護課題の優先順位の決定とその根拠と看護課題を提示説明 <個人ワーク> (提出)	講義 個人ワーク
			2	<グループワーク> 1) 看護計画立案 (提出) 個人で立案した計画をもとに再検討	グループワーク
			2	グループ発表会 提示する看護課題に従い発表	
				評価方法 看護過程提出物による評価	
	単位修得認定試験		1	筆記試験 演習(看護過程提出物)	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師(○=実務経験者)
精神看護学方法論Ⅱ	1	30	2年後期	鎌田たまみ(○) 佐々木眞弓(○)
<p>科目目的 : 主な精神障害の特徴と精神疾患について理解し、患者・看護師関係の成立・発展の必要性を学ぶ。精神に障害をもつ人と、その家族の看護に必要な基礎的知識・技術・態度を身につける</p> <p>目標 : 1. 対象―看護師関係の意義、発展させるための方法を理解する 2. 対象の特徴を知り、様々な状況における看護の展開と援助技術について理解する 3. 精神に障害をもつ対象の家族がおかれている状況を理解し、家族が危機を乗り越えるための援助を理解する 4. 精神保健・医療・福祉チームにおける看護師の役割を理解する</p>				
<p>教科書 : 新体系 看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護 メヂカルフレンド社 参考文献 : その都度紹介します</p>				
<p>評価方法 : 筆記試験(佐々木 70%) 看護過程展開(鎌田 30%) 評価認定 : 優(80点以上)、良(70~79点以上)、可(60~69点以上)、不可(60点未満)の4段階評価とする</p>				
<p>授業の進め方: 1. 教科書、配布資料の基に進めていきます 2. 看護過程の展開では、個人学習からグループワーク学習となりますので、積極的取り組んでください</p>				
単元: 精神障害患者の看護			担当講師: 佐々木眞弓	
単元: プロセスレコードの意義 精神に障害のある対象の看護過程			担当講師: 鎌田たまみ	

授業進度と内容

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1	精神障害患者の看護	精神に障害を持つ人の看護介入の基本を理解する	2	1. 精神看護における安全と事故防止 2. 精神を病む人の看護援助の基本 1)日常生活援助 2)活用する技法 (1)コミュニケーション (2)ロールプレイング (3)面接 (4)カウンセリング (5)グループワーク (6)生活技能訓練(SST) (7)心理教育 (8)精神科訪問看護	講義 DVD

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				3)行動制限と看護 (1)隔離室（保護室）使用時の看護 (2)拘束の看護 4)暴力のマネジメント (1)患者からの暴力行為から回避（逃げる）する方法 (2)暴れている患者を保護する方法 (3)言語的に興奮を鎮める技術 (4)お互いの位置関係を保つ (5)安楽カート使用 5)患者＝看護師関係 (1)患者＝看護師関係の基盤 (2)患者＝看護師関係の発展段階	講義
2 3		精神症状と問題行動に対する看護の方法について理解する	4	1. 主な精神症状と問題行動への看護 1)不安、緊張状態 2)抑うつ状態 3)引きこもり状態 4)興奮、攻撃、躁状態 5)幻覚、妄想 6)強迫、儀式行動 7)拒否、否定状態 8)操作的状態 9)自傷、自殺企図 10)嗜癖行動 11)せん妄、認知症	講義
4 5		代表的な精神疾患の看護について理解する	4	1. 主な精神疾患の看護 1)主な疾患の看護 (1)アルツハイマー病 (2)血管性認知症 (3)アルコール、薬物依存症 (4)てんかん (5)統合失調症 (6)躁うつ病 (7)人格障害 (8)心因性精神病と神経症	講義

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
6		代表的な治療の看護について理解する	2	1. 主な精神科治療の看護 1) 主な治療の看護 (1) 身体療法 (2) 精神療法 (3) 社会療法、環境療法 (4) 行動療法、活動療法	講義
7		精神に障害をもつ対象の家族の現代と危機を乗り越えるために必要な援助の基本を理解する	2	1. 精神障害を持つ患者の家族への看護 1) 家族の理解 2) 家族への支援	講義
8		地域における社会資源の機能を理解する 精神保健、医療、福祉チームにおける看護師の役割を理解する	2	1. 地域における看護 1) 地域における社会資源 (1) 治療を継続するためのリハビリテーションの場 ① 訪問看護 ② 精神科デイケア (2) 住むための施設 ① 復帰施設 ② 精神障害者居住生活支援事業 ③ 雇用及び就労支援としての社会資源 2) 精神保健医療福祉サービスの提供者	講義
9	精神に障害のある対象の看護過程	事例を通してプロセスレコードの意義を理解する	2	1. プロセスレコードの意義 プロセスレコードから考察する プロセスレコードの活用	事例 プロセスレコードの活用

科目名	単位	時間数	講義時期	講師 (○=実務経験者)
在宅看護論方法論 I	1	30	2年 後期	櫻井美奈子(○) 高橋都子(○)
科目目的 : 在宅療養者と家族への看護が実践できるために必要な基礎的知識・技術・態度を身につける 目標 : 1. 療養者と家族の日常生活を支えるために必要なアセスメントと援助方法を理解する 2. 在宅看護の中で行われる医療処置に関する援助方法を理解する 3. 膀胱内留置カテーテル法と経管栄養法に関する援助技術を安全・安楽に実施できる				
教科書 : 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院 参考文献 : 看護実践のための根拠がわかる 在宅看護技術 メヂカルフレンド社 ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア メディカ出版				
評価方法 : 筆記試験 100%(高橋 40%、櫻井 60%) 評価認定 : 優(80点以上)、良(70~79点)、可(60~69点)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方 : 1. 事前課題に取り組んでいることを前提とし授業を行います 2. 授業では参考資料も活用しながら学習内容の充実を図ります 3. 学内演習は事前課題→講義→演習→振り返り(リフレクション)→事後課題の流れで進めていきます 4. 学内演習は実際の場면을想定して行います				
単元 : 在宅看護技術			担当講師 : 高橋都子	
単元 : 在宅医療技術			担当講師 : 櫻井美奈子	

授業進度と内容

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1 2 3 4 5 6	在宅看護 技術	療養者の日常生活能力のアセスメントの視点と、生活を支える援助技術方法を理解する	12	1. 在宅看護技術の特徴 1)多様なニーズへの対応 2)経済面への配慮 2. 呼吸に関する援助技術 1)在宅における呼吸管理・ケアの特徴 2)呼吸機能のアセスメント 3)呼吸機能への介助のポイント 3. 食事に関する援助技術 1)在宅での食事の特徴 2)食生活・嚥下に関するアセスメント 3)食生活・嚥下への介助のポイント 4. 排泄に関する援助技術 1)在宅での排泄の特徴 2)排泄に関するアセスメント 3)排泄への介助のポイント	講義 DVD

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				5. 移乗・移動に関する援助技術 1)在宅での移乗・移動の特徴 2)移乗・移動に関するアセスメント 3)移乗・移動への介助のポイント 6. 清潔に関する援助技術 1)在宅での清潔の特徴 2)清潔に関するアセスメント 3)清潔保持への介助のポイント 7. コミュニケーションに関する援助技術 1)在宅看護の活動におけるコミュニケーション 2)信頼関係が築かれるためのコミュニケーション 8. 看取りに関する援助技術 1)在宅での死亡確認 2)病状変化時の対応 3)家族への死の準備教育 4)グリーフケア	講義 DVD
7 8 9 10 11	在宅医療 技術	在宅における主な医療処置について、適応と援助技術方法を理解する	10	1. 在宅における医療処置・医療行為の特徴と課題 1)療養者・家族による管理 2)薬剤・医療材料・衛生材料の調達 3)医師との連携 2. 褥瘡に関する援助技術 1)褥瘡の予防 2)褥瘡発生時の対応 3)治療・ケア計画の実際 3. 膀胱内留置カテーテルに関する援助技術 1)適応条件 2)カテーテルの種類と適応 3)合併症とその対処方法 4)プライバシーの保護と生活の工夫 4. ストーマ管理に関する援助技術 1)ストーマ（肛門・膀胱）の適応 2)ストーマからの排泄方法 3)合併症とその対応 4)生活の工夫	講義

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				5. 経管栄養（経鼻・胃瘻）に関する援助技術 1) 経管栄養の種類と適応 2) 合併症とその対応 3) 生活の工夫 6. 中心静脈栄養に関する援助技術 1) 適応条件 2) 療養者・家族への看護 7. 在宅酸素療法に関する援助技術 1) 適応条件 2) 療養者・家族への看護 8. 在宅人工呼吸療法に関する援助技術 1) 適応条件 2) 療養者への看護 9. 腹膜透析に関する援助技術 1) 適応条件 2) 療養者・家族への看護 10. 疼痛緩和に関する援助技術 1) 在宅における疼痛緩和 2) 療養者・家族への看護	講義
12 13 14 15		安全・安楽な援助技術を実践する	8	1. 学内演習 1) 項目 (1) 脳梗塞後遺症による嚥下障害がある療養者の経鼻胃チューブの挿入 (2) 脳梗塞後遺症による神経因性膀胱がある療養者の膀胱内留置カテーテルの交換 2) 方法 (1) 事前課題 ① 学習ノートの作成 a. 解剖生理・病態生理 b. 経鼻経管栄養・膀胱内留置カテーテルを適応している療養者の在宅看護 ② DVD の視聴 ③ 援助計画書の作成 ④ 援助計画書に沿った技術練習	学内演習 DVD

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				(2)学内演習の進め方 ①グループ内で「看護師役」「観察者」をローテーションする ②療養者役はモデル人形を使用する ③援助計画書に沿った技術の実施 ④技術評価 ⑤リフレクションシートの記載	
		単位修得認定試験	1	筆記試験	

<事前課題>

日常生活援助技術についてこれまで履修した内容を復習しながら、第 5 章 在宅看護技術の該当部分を熟読する。

科目名	単位	時間数	講義時期	講師 (○=実務経験者)
在宅看護論方法論Ⅱ	1	30	2年 後期	佐々木眞弓(○)櫻井美奈子(○)松木由里(○)
<p>科目目的 : 在宅療養者に多い健康障害の特徴を理解し在宅看護の実際を学ぶ。 在宅看護における療養者と家族が抱えている課題を解決するための展開方法を身につける</p> <p>目標 : 1. 訪問時の基本的態度を習得する 2. 在宅看護各時期の介入の特徴を理解する 3. 様々な症状・状態にある在宅療養者と家族に対する看護を理解する 4. ロールプレイを通して在宅看護場面のイメージ化を図り、課題解決に向けた訪問看護の展開方法を学ぶ</p>				
<p>教科書 : 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院</p> <p>参考文献 : ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア メディカ出版 看護学テキスト NiCE 在宅看護論 自分らしい生活の継続をめざして 南江堂 在宅看護論 実践をことばに (第6版) ニューベルヒロカワ</p>				
<p>評価方法 : 筆記試験 50%(佐々木)、在宅看護論演習 50%(櫻井)</p> <p>評価認定 : 優(80点以上)、良(70~79点)、可(60~69点)、不可(60点未満)の4段階評価とする</p>				
<p>授業の進め方 : 1. 事前課題に取り組んでいることを前提とし授業を行います 2. 授業では参考資料も活用しながら学習内容の充実を図ります 3. 地域医療論・社会福祉・関係法規など、在宅看護に関連する専門基礎分野の学習内容を復習しましょう 4. グループ学習で事例検討を行いロールプレイで発表しますので、各自の役割をしっかりと認識し積極的に参加しましょう</p>				
単元 :	在宅看護の実際	担当講師 : 佐々木眞弓		
	小児の療養者に対する看護	担当講師 : 松木由里		
単元 :	在宅看護における事例展開	担当講師 : 櫻井美奈子		

授業進度と内容

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1	在宅看護の実際	訪問時のマナーを理解できる 訪問看護導入のプロセスを理解できる	2	1. 訪問時の対応・マナー 1)服装・身だしなみ・携行品 2)態度と行動 3)家庭訪問・初回訪問の実際 (1)訪問の意義 (2)訪問の準備・留意点 (3)訪問の実際 (4)訪問終了後	講義 DVD

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
2		訪問看護の各介入時期における療養者及び家族の特徴と看護について理解できる	2	1. 在宅看護介入時期別の看護の特徴 1)退院前（在宅療養準備期） 2)在宅療養移行期 3)在宅療養安定期 4)急性増悪期 5)終末（看取り）期 6)在宅療養終了期	講義
3 4 5 6 7		様々な症状・病態を抱えながら生活している療養者及び家族に対する在宅看護の実際を理解する	10	1. 在宅療養者の症状・状態別看護 1)認知症の療養者に対する看護 2)独居の療養者に対する看護 3)終末期の療養者に対する看護 4)難病の療養者に対する看護 5)小児の療養者に対する看護 6)統合失調症療養者に対する看護	講義
8 9 10 11 12 13 14 15	在宅看護における事例展開	訪問看護師としてのマナーに留意し、療養者及び家族との信頼関係成立の方法を理解する	16	1. 紙上事例による訪問看護展開演習 経過別：慢性期 事例：脳梗塞後遺症のある療養者の看護（70歳代・男性） 1)項目：初回訪問のロールプレイ 2)学習方法 (1)個人ワーク ①学習ノートの作成 a.療養者・家族の発達段階・発達課題 b.疾患に関する解剖生理・病態生理 c.介護保険制度と社会資源 d.訪問看護の提供方法・種類 e.必要な看護技術の目的・方法 f.在宅における看護過程展開の視点・特徴 g.訪問時のマナー ②情報整理・アセスメント ③「現在抱えている課題」及び「将来的に起こり得る課題」を予測し看護の方向性を出す (2)グループワーク ①個人ワークの学習内容を持ち寄り「看護上の課題」を明確にする	個人ワーク グループワーク 学内演習 ロールプレイ

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				②初回訪問の看護計画書の立案 ③初回訪問のロールプレイ計画書 (シナリオ)の作成 (3)全体発表 ①初回訪問のロールプレイ (4)リフレクションシートの記載 3)評価方法 在宅看護論方法論Ⅱ演習評価表で 評価する	
単位修得認定試験			1	筆記試験、在宅看護論方法論Ⅱ演習評価表	

<事前課題>

(在宅看護の実際)

第1回 : 教科書 付章 在宅看護論における実習の手引きを熟読する。

第2～7回 : 教科書 第6章 在宅看護の実際を熟読する。